

令和6年度 第1回牧之原市地域公共交通会議

評価改善部会 次第

日 時 令和6年10月22日（火）

午後3時～

会 場 牧之原市役所榛原庁舎 4階会議室

1 開 会

2 部会長挨拶

3 協議

（1）牧之原市地域公共交通計画の評価について

… 資料1

- ・5年度における数値目標の達成状況と取組実績

（2）デマンド乗合タクシーの本格運行への移行評価等について … 資料2

- ・試験運行中の2地区（榛原市街地（しずなみ・かわさき号、ほそえ号）、相良市街地（さがらひがし号、さがらにし号）の評価

（3）令和7年度のデマンド乗合タクシーの運行計画について… 資料3

- ・各号の運行内容の変更

（4）牧之原市地域公共交通計画に基づく令和6～7年度計画について… 資料4

- ・今年度及び次年度の事業計画

4 その他

5 閉会

部会委員名簿

(交通事業者は、運賃協議に関係する事業者のみ出席し、複数事業者となる場合には、別々に開催する)

職 名	氏 名	評価	運賃
地区長会	平岡 敏弘	○	○
牧之原市消費者協会 会長	竹内 桂子	○	○
公募市民	増田 知志	○	○
公募市民	赤堀 康彦	○	○
中部運輸局静岡運輸支局 首席運輸企画専門官	増田 秀典	オブザーバー	○
しずてつジャストライン(株) 運行企画部長兼輸送計画室長	藁科 孝佳	○	案件による
東海タクシー(株) 代表取締役	大塚 弘子	○	
御前崎タクシー(株) (梅田交通グループ) 代表取締役	古知 愛一郎	○	
牧之原市 企画政策部長	大石 佳伸	○	○
豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系 准教授	松尾 幸次郎	○	オブザーバー

- ・運賃協議部会に出席する交通事業者は、案件による。
(10月22日はしずてつジャストラインのみ出席)

事務局

地域振興課 課長	原口 克也
地域振興課 空港交通係 係長	増田 隆助
主査	笠井 麻央

牧之原市地域公共交通計画

「住み続けたい」「働き続けたい」「訪れたい」を支える

地域公共交通の構築

～「夢に乗るまち 牧之原」の推進～



※RIDE ON～：（乗り物に）乗る

令和6年10月

牧 之 原 市

牧之原市地域公共交通計画に基づく取組

方 針	事 業
基本方針 1： 富士山型ネットワーク構造の形成に資する地域公共交通ネットワークの構築	1：沿岸部の路線の維持・再編（幹線軸（裾野部））
	2：市街地と高台エリアを結ぶ路線の再編（幹線軸（斜面部））
	3：富士山型山頂部からの路線の創出（広域交流拠点連携軸（山頂部））
基本方針 2： 地域公共交通の利便向上、利用促進策の推進	4：高齢者等の移動手段の提供
	5：拠点バス停の環境整備の推進
	6：誰もが利用しやすいサービスの提供
	7：モビリティマネジメントの推進
基本方針 3： 持続可能な運行を支える他分野との連携した取組と体制強化	8：観光施策と連携した取組の推進
	9：移住定住、子育て支援につながる取組の推進
	10：自動運転技術などの DX 化や ICT を活用した取組の推進
	11：市民意見を尊重する協議体制と関係者の連携強化

事業1：沿岸部の路線の維持・再編（幹線軸（裾野部））

【具体的な施策】

（特急静岡相良線）

- ・ 榛原総合病院への通勤者や通院者の利便向上を目的に、病院への乗り入れ便数の増便を検討し、榛原総合病院の拠点バス停としての強化を図ります。

（藤枝相良線、島田静波線）

- ・ バス事業者や関係市町との連携による利用促進策を実施し、両路線の維持を図ります。加えて、通勤、通学の需要に対応可能な時刻設定を協議します。

（相良御前崎線、相良浜岡線）

- ・ 特急静岡相良線や藤枝相良線とのスムーズな接続や、高校生の通学利便の向上を中心とした地頭方地区の負担軽減につながる改善策を検討します。



☆相良総合センター「い〜ら」、相良原子力防災センター「サーボ」、建設中の多目的体育館、ミルキーウェイスクエアの図書交流館「いこっと」や同地へ移転する相良児童館など、近年整備が進む相良地域の公共施設へ接続するよう経路変更を検討し、新たな役割を担う路線に位置付けます。（※市道須々木大溝線の国道 150 号線までの区間開通後（令和 9 年完成予定）を予定し、波津区に交通空白地域が生じないように、一方の路線のみの変更を検討）

事業の実施主体

牧之原市、バス事業者、関係市町

事業の実施年度

具体的な施策の☆マークは重点的に取り組む事業とし、当該事業のスケジュールを示す

	R5	R6	R7	R8
特急静岡相良線、 藤枝相良線、島田静波線	維持	維持	維持	維持
☆相良御前崎線 ☆相良浜岡線	維持	維持	維持	経路変更準備 (R9以降変更)

事業Ⅰ R5～R6 の取組状況

（特急静岡相良線）

榛原総合病院への乗り入れ便を増やした場合、距離や運行時間が伸びるといった課題があるため、継続協議中。

（藤枝相良線、島田静波線）

榛原高校との通学手段に係る意見交換に参加（R5.11.10）

＜高校の要望＞	＜市の回答＞
① 藤枝相良線の藤枝駅発・相良方面行きの榛原高校前到着時刻（8:25）を勘案し、授業の開始を10分遅らせて8時30分としたが、日常的に遅延が発生しているため、通学に利用できていない。	① 該当便は、藤枝駅行きの初便が折り返す便であるため、相良営業所出発時刻を早める必要があるが、運転手の拘束時間が増えるため、現状では難しいと思われる。
② 藤枝相良線の最終便は、高校前に18:31着だが、もう少し後の便もほしい。	② 基本的には、藤枝相良線は藤枝駅へ行く需要に合わせて時刻や便数を設定しているため、最終便は藤枝駅発便が相良方面へ適正な時間に向かう時刻設定をしていることから、時刻改正は難しいと思われる。

※藤枝相良線の榛原高校前最終便は、現在では17:56着となっている。

（榛原高校、相良高校への路線バスを利用した通学確認）

	榛原高校（榛原高校入口）		相良高校（相良本通）	
	登校（初便）	下校（最終）	登校（初便）	下校（最終）
島田静波線	8:03	19:27	—	—
藤枝相良線	8:25	17:56	8:47	17:37
特急静岡相良線	7:42	21:17	7:56	21:05

※市外から市内2校に通学する場合、藤枝相良線で通学することは難しいが、特急静岡相良線の東名大井川バス停で乗降すれば通学可能

（相良御前崎線、相良浜岡線）

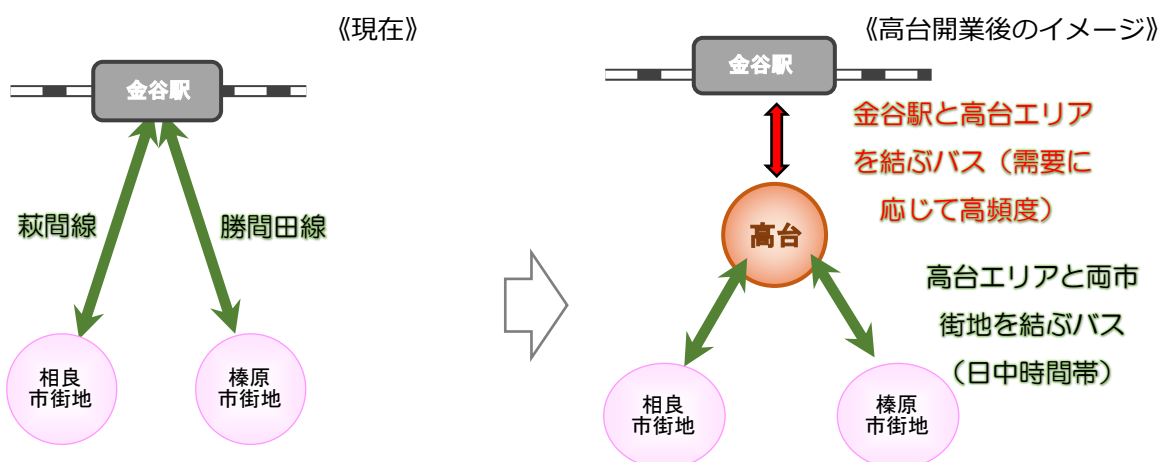
① 高校生の通学利便の向上を中心とした地頭方地区の負担軽減

- ・相良御前崎線の最終便19:32発を19:50発に変更することで、特急静岡相良線で帰宅する榛原高校生の部活動終了後の移動が改善した。

② 便数見直し

- ・両路線の便数を見直し、利用状況に応じた適正な便数に変更した。

事業２ 市街地と高台エリアを結ぶ路線の再編（幹線軸（斜面部））



【具体的な施策】

- ☆利用者の多い萩間線を基幹路線として維持しつつ、市街地から高台エリアを経由し、近隣のJR駅へ運行することで路線の効率性を高めます。
- ☆萩間線、勝間田線の起点となる相良、榛原両市街地から高台エリアまでの運行経路については、小学生の登下校利用に加え、高齢者の移動、高台エリアからの来訪者利用を想定し、巡回型を含め、実態に応じた運行経路を検討します。

事業の実施主体

牧之原市、バス事業者、関係市町

事業の実施年度

具体的な施策の☆マークは重点的に取り組む事業とし、当該事業のスケジュールを示す

R5	R6	R7	R8
維持	維持	経路変更準備	高台エリア開業に合わせて変更

事業２ R5～R6 の取組状況

継続協議中

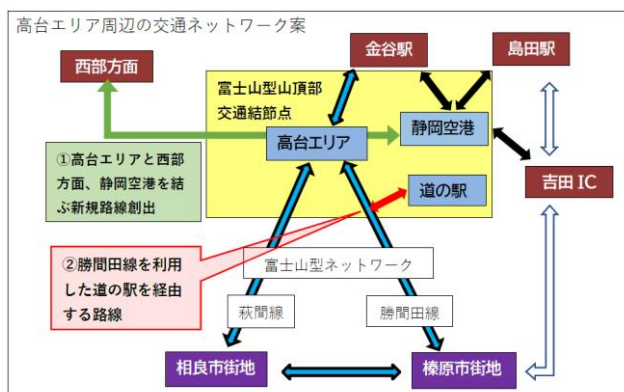
◆現在の方針（案）

- ① 萩間線：経路変更により高台バス停への接続を予定
- ② 勝間田線：バスを利用中の勝小児童（現在８人）の通学手段確保と高台への接続について、関係者との協議していく。

事業3 富士山型山頂部からの路線の創出（広域交流拠点連携軸（山頂部））

【具体的な施策】

- ① 高台エリアと西部方面を結ぶ路線や静岡空港を結ぶ路線の創出を検討し、商業施設への通勤や買い物需要と静岡空港の利用者を取り込むと同時に、市民の移動手段となるような路線を検討します。
- ② 事業2の高台エリアと両市街地を結ぶバスの経路として、既存の勝間田線を延伸して「道の駅（仮）さかべ」を経由する路線を検討します。



事業の実施主体
牧之原市、バス事業者、タクシー事業者、関係市町
事業の実施年度

	R5	R6	R7	R8
①	協議・調整	協議・調整	経路変更準備	高台エリア開業に合わせて運行
②	協議・調整	協議・調整	経路変更準備	高台エリア開業に合わせて変更

事業3 R5～R6 の取組状況

継続協議中

◆現在の方針（案）

① 高台エリアと西部方面、静岡空港を結ぶ新規路線創出

西部方面：企業送迎バス、菊川市コミュニティバス等の地域の輸送資源を活用した運行を検討

その他、定時定路線の運行の必要性を検討していく

静岡空港：県や民間事業者の空港アクセスバス等の地域の輸送資源を活用した運行を検討

② 道の駅を経由する路線

- ・勝間田線を経路変更した接続を検討
- ・県の空港アクセスバスの停車を要望
- ・静岡空港と道の駅は自動運転車両を活用した接続も検討

事業4 高齢者等の移動手段の提供

【具体的な施策】

☆デマンド乗合タクシーの利用促進の継続や大御所パスの周知を図ります。

- ・運転免許証自主返納支援事業を促進し、バスやタクシーを活用して高齢者の事故を防止します。

事業の実施主体

牧之原市、タクシー事業者、福祉関係組織

事業の実施年度

具体的な施策の☆マークは重点的に取り組む事業とし、当該事業のスケジュールを示す

R5	R6	R7	R8
継続実施	継続実施※全域での本格運行開始	継続実施	継続実施

事業4 R5～R6 の取組状況

- ・じとうがた号の本格運行への移行
- ・号の統合による運行日の増

号	運行会社	運行状況	運行便数
さかべ号	東海 タクシー	本格運行	週2 8便
かつまた・まきのはら号		本格運行	週3 6～8便
しずなみ・かわさき号、ほそえ号		試験運行	週3 8便
すげやま・はぎま号	御前崎 タクシー	本格運行	週3 8便
じとうがた号		本格運行	週2 8便
さがらひがし号、さがらにし号		試験運行	週3 8便

◆課題・今後の予定

(デマンド乗合タクシー)

- ・令和7年度から、榛原、相良市街地のデマンド試験運行を本格運行へ移行予定
(榛原は半年延長の可能性あり)

(路線バス)

- ・大御所パスの周知
- ・牧之原市高齢者運転免許証自主返納支援事業助成金への大御所パス追加の検討

【現在】

- ・バス：なし
- ・デマンド乗合タクシー無料券 6,000 円分相当
- ・静岡県タクシー共通クーポン 6,000 円分相当

事業5 拠点バス停の環境整備の推進

【具体的な施策】

☆特急静岡相良線が停車する拠点バス停や、バス路線再編に伴い整備する結節バス停、今後整備予定の高台エリアのバス停について、屋根付き待合所やベンチの設置、バスロケーションシステム等を整備し、快適な待合環境の整備を推進します。

- ・拠点バス停や結節バス停の周辺に、サイクルアンドライド駐輪場の設置を検討し、結節点の機能強化を図ります。

事業の実施主体

牧之原市、バス事業者、タクシー事業者、関係市町

事業の実施年度

具体的な施策の☆マークは重点的に取り組む事業とし、当該事業のスケジュールを示す

R5	R6	R7	R8
推進・協議	推進・協議	推進・協議	高台エリアバス停整備

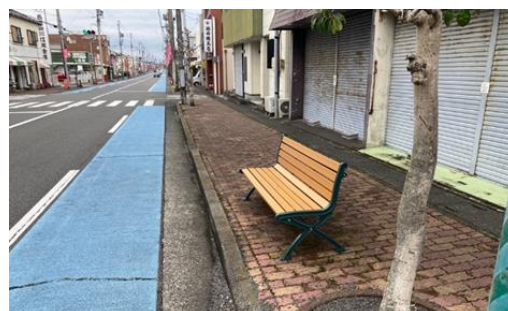
事業5 R5～R6 の取組状況

整備状況

年度	バス停	整備内容
R3	相良本通り（上り）	屋根付き待合所整備
R4	相良本通りバス停付近	相良中央駐車場内駐輪場整備
R5	（自主）相良本通りバス停（下り）	待合ベンチ整備
R6	根松バス停（下り）	サイクルラック整備



根松バス停（下り）



（自主）相良本通りバス停（下り）

※相良営業所（上下）のバス停車帯整備及び高台バス停は R8 整備予定

◆課題・今後の予定

- ・拠点バス停付近のパークアンドライド駐車場の確保は根強い要望があるが、適地確保には至っていない。

事業6 誰もが利用しやすいサービスの提供 R5～R6 取組確認

【具体的な施策】

- ☆進学を控えた市内の中学生や高校生向けに、バスを使った学生生活のリーフレットや、近隣の高校・大学等へのアクセスマップ、企業や地域別にカスタマイズした情報を掲載したチラシ等を作成・配布し、効果的な情報提供を図ります。
- ☆利用者の実態に合わせた時刻設定の見直し、乗り換えに係る待ち時間短縮を図るなど、使いやすい時刻への見直しを定期的に行います。
- ・国の「地域公共交通確保維持事業」による低床バスやUD タクシーの導入促進や、環境負荷の少ない車両の導入に対する調査、研究を実施し、時代に対応した車両の普及を交通事業者とともに検討します。

	事業の実施主体
--	---------

牧之原市、バス事業者、タクシー事業者、関係市町、市内中学校・高校

	事業の実施年度
--	---------

具体的な施策の☆マークは重点的に取り組む事業とし、当該事業のスケジュールを示す

R5	R6	R7	R8
情報発信実施	継続実施	継続実施	継続実施

※時刻設定の見直し等は随時行う

事業6 R5～R6 の取組状況

① デマンド乗合タクシーの使い方動画（音声付き）を整備（市 HP 掲載）

Youtube URL

<https://youtu.be/yep3ByqeSJ8?si=3qmrJsXjSOLeeVEz>

※右の QR コードからもアクセスできます→



◆課題・今後の予定

- ・近隣の高校・大学等へのアクセスマップの作成、配布
- ・自主運行バスの JR 駅との接続状況の確認（改善要望あり）
- ・EV バス等の環境配慮車の調査研究

事業7:モビリティマネジメントの推進

【具体的な施策】

☆高齢者や児童、学生を対象としたバスの乗り方教室、タクシーの乗り方教室を企画し、利用者の掘り起こしを図ります。

☆しずてつジャストライン（株）が実施するバスフェスタの誘致や、産業フェア等の各種イベントにおいて、低床バスやUDタクシーを展示し、公共交通を身近に感じてもらう機会を提供します。

▼バスの乗り方教室



- 2
- ・過去に実施した「バス路線沿線の風景写真コンテスト」のように、公共交通への興味につながる取組を実施します。
- ・ゼロカーボンや温暖化対策と連携したモビリティマネジメントの実施を検討します。

（例）・ノーカーデー、エコ通勤の推進

- ・COOL CHOICE（1日限定で静岡市内のバス、鉄道運賃が無料 R4 実施）

モビリティマネジメント：一人一人のモビリティ（移動）が、個人的にも社会的にも望ましい方向（すなわち、過度な自動車利用から公共交通・自転車等を適切に利用する方向）へ自発的に変化することを促す、コミュニケーション施策を中心とした交通政策

事業の実施主体

牧之原市、バス事業者、タクシー事業者

事業の実施年度

具体的な施策の☆マークは重点的に取り組む事業とし、当該事業のスケジュールを示す

R5	R6	R7	R8
実施	継続実施	継続実施	継続実施

事業7 R5～R6 の取組状況

主な取組は次ページ参照。取組一覧は資料2 P17 参照。

◆課題・今後の予定

- ① デマンド乗合タクシーの使い方教室：実施中
- ② 産業フェア出展 11月17日（日）ガスワンアリーナ駐車場
 - ・しずてつジャストライン（株）協力による低床バス展示
 - ・環境フェアとの連携による公共交通利用促進（ゼロカーボン、温暖化対策）
- ③ 公共交通に親しむ機会の提供 12月7日（土）、8日（日）
 - ・ハッピーライド事業（運賃協議部会で説明）

基本方針

1 交通ネットワーク

市のまちづくりと同じく、榛原台エリアを結ぶ「富士山型ネットワーク」の再編を計画します。

- ①富士山型沿岸部の路線
- ・特急静岡相良線：補完総合病院の拡大検討
 - ・相良駅前崎線、相良浜岡線：相良や建設中の多目的体育館へのアクセス変更
- ②富士山型斜面部の路線
- ・萩原線、開開田線：高台エリア
- ③富士山型山頂部の路線
- ・高台エリアから西部方面と富士山頂部へ向かう路線創出
 - ・「道の駅（仮）さかべ」との接続



2 利便向上、利用促進

基本方針1「交通ネットワーク」を利用しやすいものとするため、公共交通の利便向上につながる環境整備や利用促進を図ります。



- ③高齢者などの移動手段
 - 市内全域を運行するデマンド乗合タクシーの分りやすい周知と利用促進
- ④拠点バス停の環境整備
 - 屋根・ベンチ付き待合所、駐輪場の整備
- ⑤誰もが利用しやすいサービス
 - バス利用者のニーズに合わせた発着線図や時刻表の作成、時代に即した車両の導入（低床バス、ユニバーサルデザインタクシー、環境に優しいEV車両など）
- ⑥モビリティマネジメント（自家用車から公共交通への転換や利用促進など）
 - バスの乗り方教室の開催、公共交通に親しむイベントの実施、環境施策との連携など

3 他分野との連携

公共交通計画は、上位計画である「第3次枚原市総合計画」との連動を図るため、総合計画の重点・戦略プロジェクトと連携した取り組みを計画しています。

- ①観光分野との連携
観光イベントとの連携、富士山静岡空港と市街地を直結
- ②移住定住、子育て支援との連携
バス通学の高校生を支援する取組
- ③DX（デジタルトランスフォーメーション）との連携
自転車通学の運行などの交通分野のデジタル化
- ④市民、企業、交通事業者などとの連携
意見交換会の開催や運転手確保への協力



運転手募集

各交通事業者では、市の公共交通を担う運転手を募集しています。
興味のある人は、以下にお問い合わせをお願いします。

[路線バス] しずてつジャストライン(株) 人事部人材支援課 ☎ 054-267-5153
 [タクシー] ▶東海タクシー(株) ☎ 02088 ▶御前崎タクシー(株) ☎ 2655



「住み続けたい」「働き続けたい」「訪れたい」
を支える地域公共交通の構築

 之原市

 域公共

 通計画を策定

問い合わせ 地域振興課 増田隆助 ☎230053

将元来として安んじて生活し続けるが故に、市外部の交通網に方向性を、市民の移動を支える地域公共交通を打ち出す。また、東名相模線駅に隣接する高台エリアや富士山静岡空港、沿岸部の観光施設の整備により、今後、市外からの交通人口の増加も期待される中で、市を市外からの地域公共交通で支えたい。また、市では、駅支那の移動を支える地域公共交通の方向を示す「市外地域公共交通計画」を策定した。計画の期間は、令和5年度から令和8年度までの4年間で、

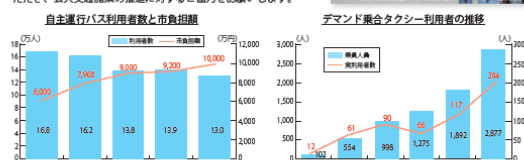
今後は、市民の快適な移動を支える市を市外からの移動手段の確保などこの計画に基づく施策を実施し、公共交通の利便性向上を推進していきます。

地域公共交通計画の計画書は、市HP（右の二次元コード）をご覧ください。

持続可能な公共交通を目指して

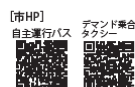
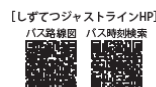
公共交通の利用者数は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を機に大きく減少しました。現在でも、働き方などの社会生活の文化により、以前の状態に戻ることは難しい状況です。利用者と運賃収入の減少により、市の負担は年々上昇していることに加え、全国的な問題である運転手不足が過半数、現在の公共交通を維持することは困難とされています。一方で、市内全域で導入している会員制のデマンド乗合タクシーの利用は増加しており、高齢者などの通院や買い物などの生活に欠かせない移動手段となっています。

今一度、地域の皆さんが支える公共交通であることを認識していただき、公共交通施策の推進に対するご協力をお願いします。



時刻表や路線図

市内を走るしずくジャストラインの路線バスや自主運行バス、デマンド乗合タクシーの時刻表などについては各HPをご覧ください。



2023.08 MAKINOHARA | 2

路線バスの魅力を発見する会

日時 9月21日開催

主催 憩いの家みち 石津道弘さん

内容 路線バスの魅力を知ってほし

いという思いから実施。藤枝駅から相良本通を貸切ディーゼルバスで運行。参加者は池田屋（市内）のビールとすけろく（市内）の昼食でバスの旅を楽しんだ。

市の地域振興課職員も参加し、藤枝相良線の利用状況や経路上の見どころを説明した。

一般の方が市内飲食店とバスの利用促進をコラボさせた好事例であり、今後もこのような取組を支援していく。



事業8 観光施策と連携した取組の推進

【具体的な施策】

☆公共交通で移動が可能な観光モデルルートを設定し、公共交通による観光周遊行動を促します。

☆公共交通と観光イベントを連携させた取組を計画します。（例：バス＋ウォーキング、バス＋観光ツアー等）

- ・事業3で示した富士山静岡空港と高台エリアを結び、高台エリアから市街地への誘導を図るため、高台施設バス停に観光情報が得られるスペースを整備します。
- ・インバウンド需要を取り込むことを目的に、夏季の海水浴期間中などの観光シーズンに、富士山静岡空港と市街地を結ぶ直通バスの実証運行を検討します。

事業の実施主体

牧之原市、バス事業者、タクシー事業者、（一社）まきのほら活性化センター

事業の実施年度

具体的な施策の☆マークは重点的に取り組む事業とし、当該事業のスケジュールを示す

R5	R6	R7	R8
計画	実施	継続実施	継続実施

事業8 R5～R6 の取組状況

- ・目立った取組ができなかった。
- ・まずは担当課や（一社）まきのほら活性化センターとの意見交換で課題や方針を確認する。

◆課題・今後の予定

① 観光イベントとの連携

◆大河ドラマ「べらぼう」田沼意次候顕彰事業

- ・・・特急静岡相良線のラッピングバス（大河ドラマ活用推進室）

② 富士山静岡空港と市街地を結ぶ直通バスの運行

- ・・・空港、高台エリア、道の駅を結節点とした路線再編や自動運転車両を活用した市街地誘導を検討する。

事業9 移住定住、子育て支援につながる取組の推進

【具体的な施策】

- ・成人式など若者が多く集まる機会や移住定住の相談の際に、公共交通のマップ等が手元に渡るような細やかな連携や、特急静岡相良線等の利便性をPRするチラシ作成に取り組み、移住定住を推進します。

☆高校生のスムーズな通学の確保を図り、保護者の送迎負担の軽減につながる施策を検討します。特に、市内の榛原高校、相良高校に対しては、学生確保、保護者の負担軽減を目的に、高校と定期的に意見交換を実施します。

- ・市内の中学や高校と連携し、高校や大学進学の際のバス路線を利用した通学手段に対し、担当課内に相談体制を整備し、バス路線による効率的な通学手段を提案します。
- ・自主運行バスを利用している遠距離通学児童の通学手段を引き続き確保します。

事業の実施主体

牧之原市、バス事業者、小学校、中学校、高校

事業の実施年度

具体的な施策の☆マークは重点的に取り組む事業とし、当該事業のスケジュールを示す

R5	R6	R7	R8
検討	実施	継続実施	継続実施

事業9 R5～R6の取組状況

- ・高校生を対象とした路線バス通学定期券購入費補助制度を開始

(R6の途中経過は次ページ参照)

【対象となる路線】

しずてつジャストライン(株)が運行する路線バス

特急静岡相良線、藤枝相良線、島田静波線、萩間線、勝間田線、相良御前崎線、相良浜岡線

【補助率、上限】

○補助率：購入金額の1/2

○補助上限額：下記のとおり

在籍先	補助上限額
静岡県立相良高等学校 静岡県立榛原高等学校	3万円
市外の高等学校等	1万5千円

◆課題・今後の予定（通学定期券に係る市に寄せられた市民意見）

- ・制度の拡充：スクールバス利用者、大学生も対象としてほしい
- ・補助額見直し：市外高校の補助増額

令和6年度 通学定期補助の申請状況

◆R6 実施状況（令和6年9月末時点）

① 補助対象者・・・96人（榛原地域：44人 相良地域：52人）

② 高校内訳

	高校	人	路線
静岡市 21人	静岡高校	5	特急静岡相良線 21
	科学技術高校	3	
	城南静岡高校	2	
	ヒューマンキャンパスのぞみ	2	
	おおぞら高等学校	2	
	その他（各1人）	7	
焼津市 26人	清流館高校	14	特急3、藤枝相良5、特急＋藤枝相良6
	焼津中央高校	8	特急8
	焼津水産高校	4	特急4
島田市 14人	島田工業高校	5	萩間3、特急2
	島田商業高校	6	島田静波4、特急＋島田静波2
	島田実業高等専修学校	2	萩間2
	ふじのくに国際高等学校	1	萩間1
藤枝市 24人	藤枝東高校	19	特急18、藤枝相良1
	藤枝明誠高校	4	特急3、藤枝相良1
	藤枝北高	1	特急1
牧之原市 10人	榛原高校	7	特急5、特急＋相良御前崎2
	相良高校	3	特急3
その他 1人	中遠調理師専門学校	1	特急1
		96	

※補助金交付者に対し、アンケートを実施予定

事業 10 自動運転技術などの DX 化や ICT を活用した取組の推進

【具体的な施策】

☆自動運転車両の市内での実証運行の可能性を調査し、将来的な導入を検討します。なお、導入候補地としては、拠点バス停や賑わい施設からバス路線が無い場所への移動を補完する「ラストマイル」の考えと、低速運行が可能な地域を基本に、実証運行から将来的な導入を検討します。

- ・交通事業者とともに MaaS の調査・研究を進めます。
- ・タクシーの予約方法等の ICT 化など、交通分野のデジタル化の調査・研究を進めます。

事業の実施主体

牧之原市、バス事業者、タクシー事業者、静岡県

事業の実施年度

具体的な施策の☆マークは重点的に取り組む事業とし、当該事業のスケジュールを示す

R5	R6	R7	R8
調査・研究	調査・研究	調査・研究	調査・研究
実証運行（3 年間のいずれかで）			

事業 10 R5～R6 の取組状況

① 自動運転

先進地視察や説明会への参加、情報収集を行っている。

② ICT 化

- ・路線バス通学定期券購入費補助の申請から支給までをオンライン化した
- ・デマンド乗合タクシーのオンライン会員登録を整備



◆課題・今後の予定

（自動運転）

- ・7 年度または 8 年度に、市内での実証運行の機会を探る。
- ・静岡県では、県内 6 カ所（松崎町、袋井市、富士市、静岡市、浜松市、沼津市）の実証運行を今年度実施予定であるが、来年度以降に実施できないか検討する。

事業 11: 市民意見を尊重する協議体制と関係者の連携強化

【具体的な施策】

- ・各地区の地域協議会や利用者、関係者に対し、情報提供や意見交換会を定期的を実施し、計画の推進に努めるとともに、公共交通の充実を図ります。
- ☆交通事業者の運転手不足に対し、周知・広報や、確保に向けた取組を共同で推進するとともに、NPO 法人による輸送等の新たな担い手事例の調査・研究を進めます。
- ・関係市町と連携し、自主運行バスや地域間幹線系統の利用促進を図るとともに、菊川市のコミュニティバスや県や藤枝市が運行する空港アクセスバスなど、市内を運行する他市や県の公共交通の上手な活用を周知します。

事業の実施主体

牧之原市、バス事業者、タクシー事業者、関係市町、地域や各種団体

事業の実施年度

具体的な施策の☆マークは重点的に取り組む事業とし、当該事業のスケジュールを示す

R5	R6	R7	R8
実施	実施	実施	実施

事業 11 R5～R6 の取組状況

- ・関係者との意見交換を実施した（次ページ参照）

◆課題・今後の予定

① ライドシェア

新たな担い手事例の調査・研究の一環として、ライドシェアの推進組織である「（一社）全国自治体ライドシェア連絡協議会」へ加入した。また、静岡県地域公共交通活性化協議会においてもライドシェア専門部会が立ち上がり、県内でも交通空白地域の解消手段として推進体制が確立された。

② 共助型移送

NPO や地域ボランティアによる運送の調査研究を行う。

（例）

【御前崎市：地域協働バス】

市が地区に車両を貸し出し、地域住民が運転手となる無償運行。現在 5 地区で導入している。

【R5 の主な取組】

① 地域協議会

デマンドの利用状況の説明と班組回覧による周知を依頼。

② 意見交換会

<学校連携：榛原高校>

榛高職員、PTA 役員との意見交換を実施。

生徒へのアンケート調査を基に、路線バスの時刻改正等を検討した。

<福祉連携：主任ケアマネージャー会議>

デマンド乗合タクシーの利便向上と周知を目的に、同会議で意見交換を 2 回実施。(約 20 人)

オンライン会員申請、無料体験乗車会の開催によるタクシーの抵抗感の軽減等のアイデアをいただいた。

<企業連携：矢崎部品(株)ものづくりセンター>

従業員送迎バスの状況について意見交換を実施。

<交通事業者、関係市連携>

バス、タクシー事業者との意見交換を適宜実施し、各交通モードの改善を図った。
関係市と路線バスの今後の方向性に係る意見交換を実施した。特に御前崎市とは、自主運行バス 2 路線について見直しを実施した。

③ 運転手不足対策

広報 8 月号の特集記事で、バス、タクシーの運転士募集を掲載。

班組回覧 静波・川崎地区（予約型）乗合タクシー しずなみ・かわさき号ニュース Vol.1 ～ 特定施設の変更・追加のお知らせ ～

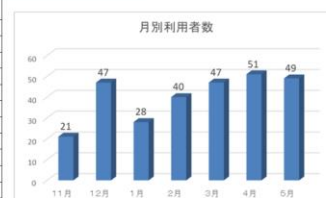
日頃、「しずなみ・かわさき号」の運行に関し、ご理解いただきありがとうございます。
特定施設の変更及び追加をお知らせします。
引き続き多くの皆さんの利用をお待ちしております。

令和5年4月からの変更点

	地区	施設
		特定施設
追加	細江 350円	えのきだクリニック ディスカウントドラッグコスモス細江店 ウエルシア牧之原細江店 ウエルシア牧之原榛原店
廃止	静波 細江	閉院・閉店等による廃止 石井歯科医院 島田掛川信用金庫細江支店

会員登録者数と利用者数（令和5年3月末現在）

	会員登録者数	利用者
1丁目	16人	3人
2丁目	6人	3人
3丁目	4人	0人
4丁目	7人	0人
東5丁目	5人	3人
西5丁目	14人	4人
6丁目	4人	0人
仲町	10人	7人
10丁目	2人	0人
11丁目	8人	5人
12丁目	3人	1人
橋向	8人	4人
藤沢	10人	5人
橋柄	0人	0人
新戸	2人	2人
庄内	0人	0人
鹿島	3人	1人
日機装	0人	0人
仁田	7人	2人
道場	22人	3人
追廻	1人	1人
計	132人	45人



問い合わせ先：牧之原市地域振興課 空港交通係
〒421-0495 牧之原市静波 447-1
電話 0548-23-0053 FAX 0548-23-0059

牧之原市地域公共交通計画

「住み続けたい」「働き続けたい」「訪れたい」を支える

地域公共交通の構築

～「夢に乗るまち 牧之原」の推進～



※RIDE ON～：（乗り物に）乗る

令和6年10月

牧 之 原 市

第4章 計画の基本方針と目標 (2) 計画の目標

本計画の目標値については、3つの基本方針のそれぞれに目標を定めます。

バスに係る項目は、新型コロナウイルスの影響を受け令和2年、令和3年は数値が大きく落ち込んでいることから、コロナ禍前の令和元年度の状況に戻すことを目標に設定します。その他の項目の目標は、直近の数値からの増加、向上に取り組みます。

なお評価方法は、項目の数値が、原則前年度数値を下回らないことを目標に毎年単年度で評価し、計画期間内に目標年度の令和8年の数値に近づけていくこととします。

達成状況まとめ（中間評価）

基本方針	種別	内容	前年度実績	R5実績	単年度評価	R8目標
1	① バス利用者数(年間)	路線バス	306,340 人	324,893 人	○	379,000 人
		自主運行バス	129,622 人	131,082 人	○	162,000 人
	② バス収支率	路線バス	36.3%	37.3%	○	47.2%
		自主運行バス	12.3%	12.3%	△	18.2%
	③ バス公的負担額	路線バス	11,125 千円	18,165 千円	×	1,388 千円
		自主運行バス	100,063 千円	102,716 千円	×	79,421 千円
2	デマンド乗合タクシー	④ 年間利用者数	2,877 人	3,578 人	○	4,600 人
		⑤ 乗合率	1.42 人	1.30 人	×	1.5 人
		⑥ 会員登録率	13.2%	14.3%	○	15%
	⑦ 利用者満足度	バス	56%	—	—	72%
		デマンド	72%	—	—	80%
	⑧ モビリティマネジメント	取組件数	10 項目	10 項目	○	10 項目
3	市民意見の尊重	⑨ 公共交通の満足度	30.4%	26.7%	×	40%

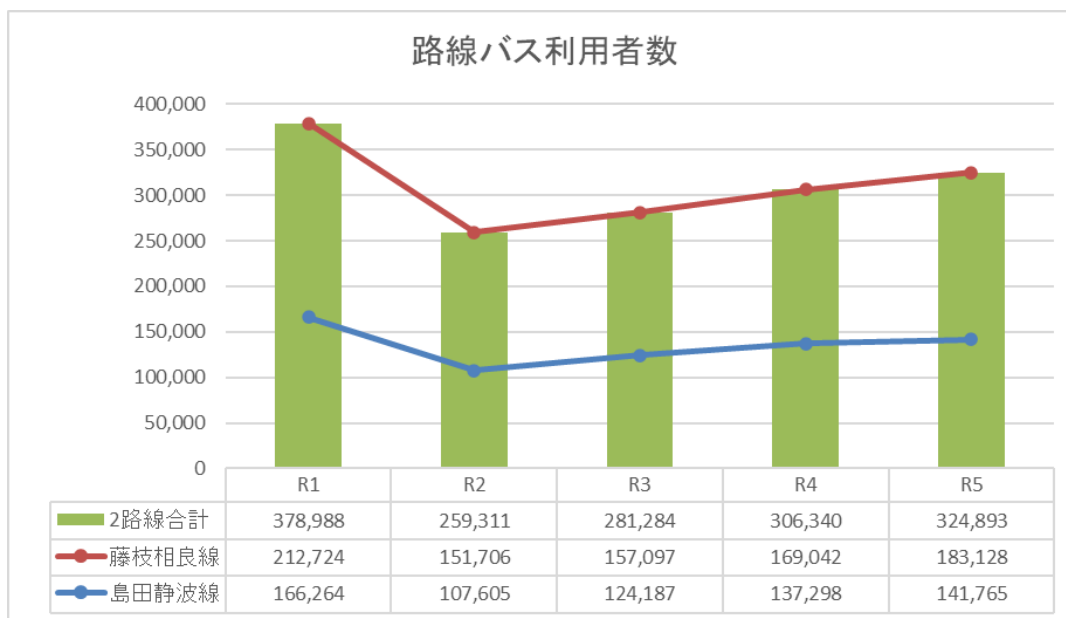
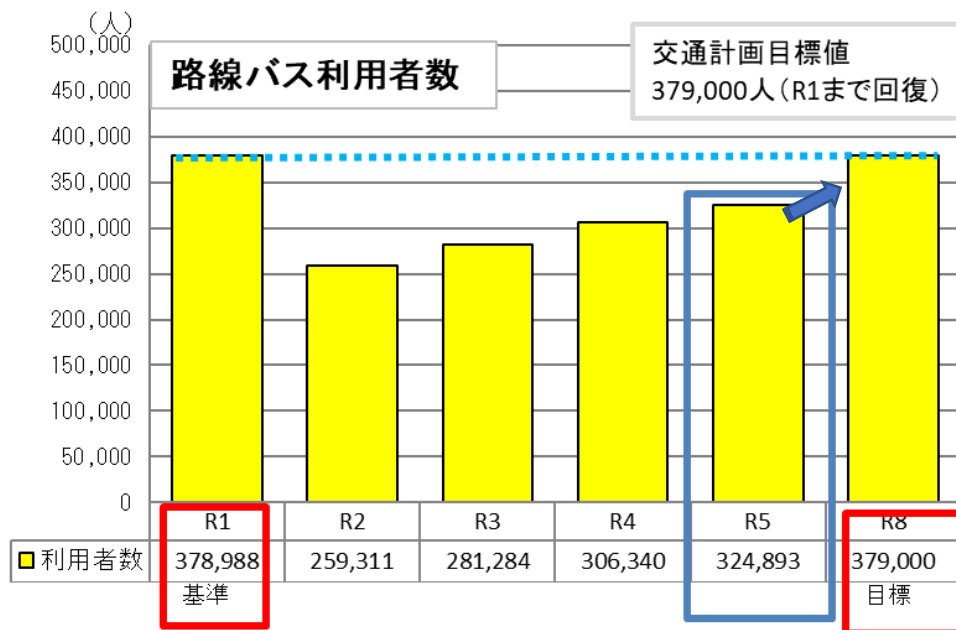
基本方針1に関する目標

基本方針1のネットワークでは「バス利用者数」、「バス収支率」、「バスに対する公的負担額」の3項目について、路線バスと自主運行バスのそれぞれで目標値を定めます。

富士山型ネットワークの構築に関する路線再編は高台エリアの開業時となるため、本計画期間は事前準備の段階となり、大きな路線再編には至りませんが、利用者数と収支率の増加（回復）に加え、便数見直し等による公的負担額の抑制を図ります。

目標① バス利用者数

バス	前年度 (R4)	実績 (R5 確定)	前年度 比較	目標	目標 (R8)
路線バス (藤枝相良線、 島田静波線)	306,340 人	324,893 人	○	R1 数値 に回復	379,000 人



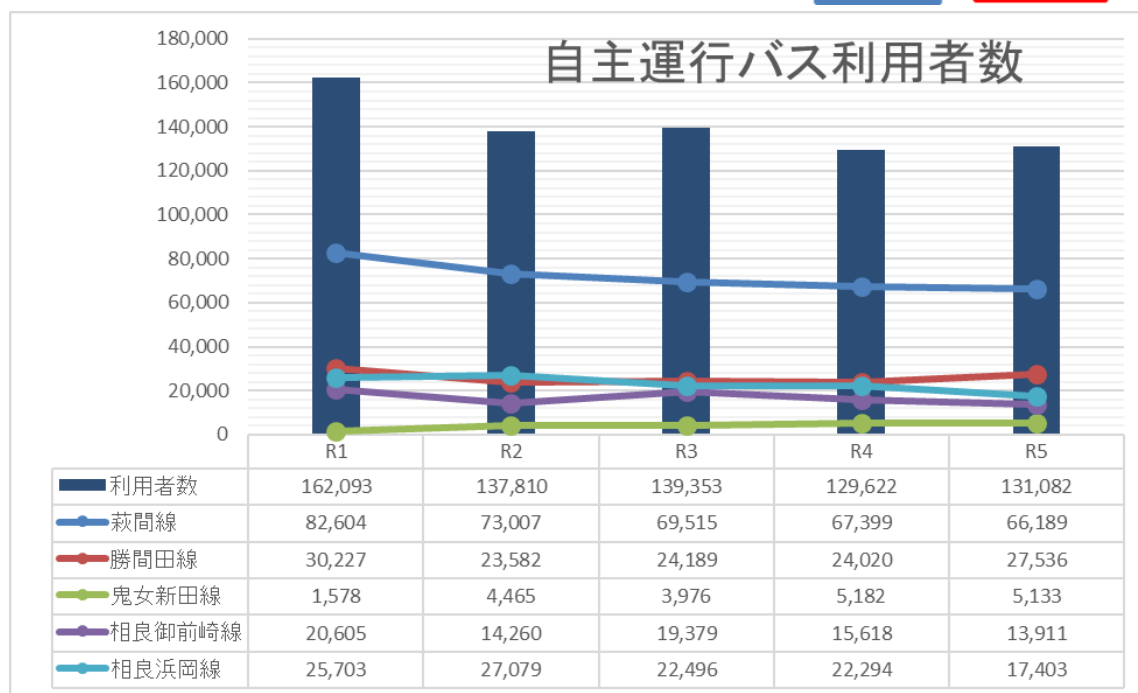
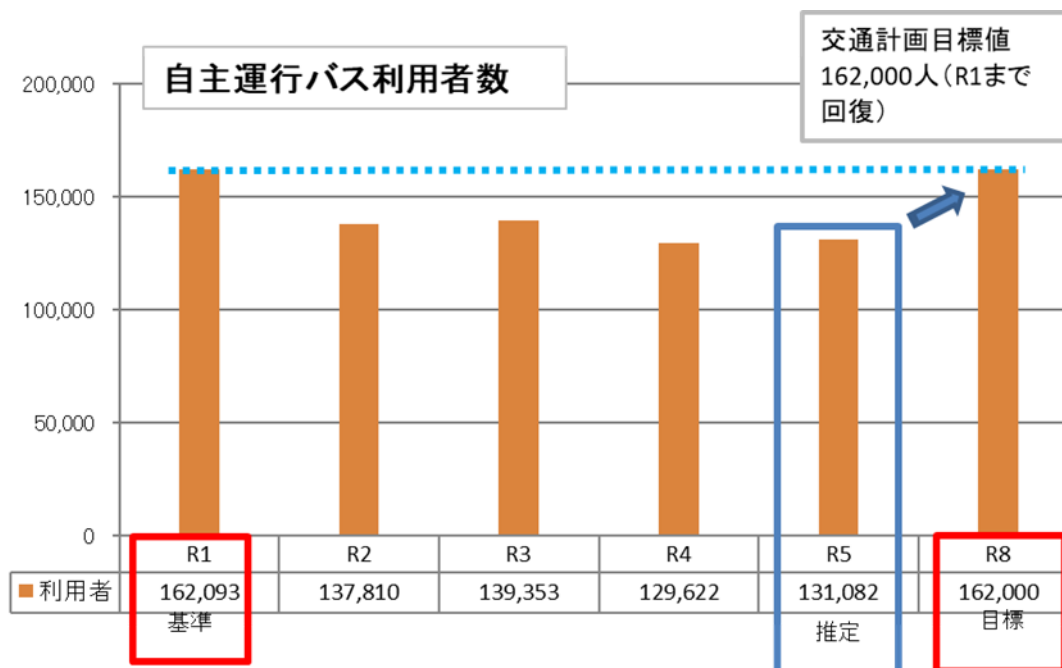
(まとめ)

両路線ともに回復傾向にある。(島田静波線：約 3.3%増、藤枝相良線：約 8.3%増 2 路線合計：約 6.1%増)

引き続き、路線を維持し、バス事業者や関係市町と通勤通学の利便向上や利用促進に取り組む。

目標① バス利用者数

バス	前年度 (R4)	R5 実績	前年度 比較	目標	目標 (R8)
自主運行バス (市営バス含む)	129,622 人	131,082 人	○	R1 数値 に回復	162,000 人



路線別利用者数

	令和５年度（人）	令和４年度（人）	前年度比較（％）
萩間線	66,189	67,399	98.2
勝間田線	27,536	24,020	114.6
鬼女・菅山線	5,133	5,182	99.1
相良御前崎線	13,911	15,618	89.1
相良浜岡線	18,313	17,403	105.2
合計	131,082	129,622	101.1

（まとめ）

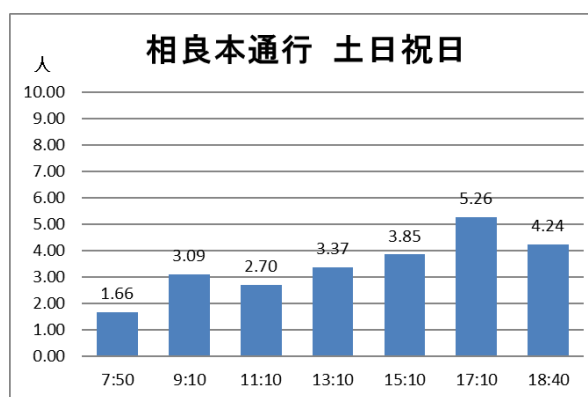
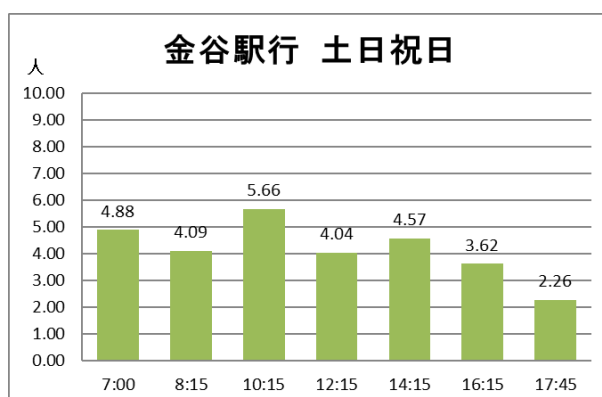
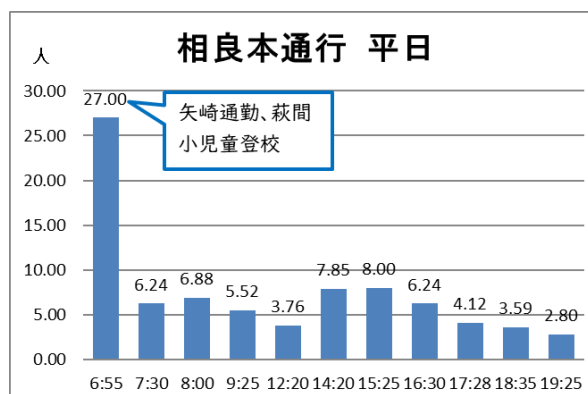
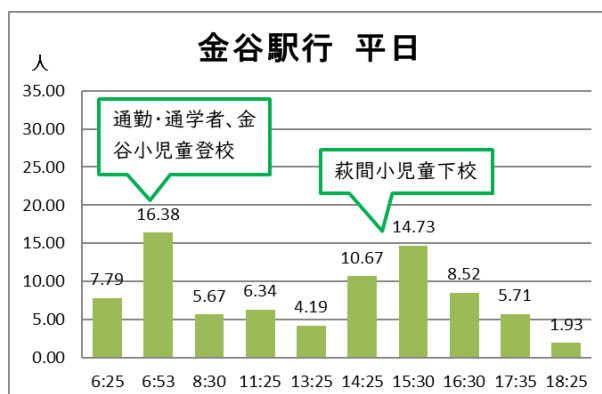
利用者数は 13 万人台へ回復したが、路線バス（藤枝相良線、島田静波線）と異なり、コロナによる利用者数の減少以降は横ばいや微減が続いている。

相良御前崎線は、1 日約 5 人の利用者数の減少が見られるが御前崎中学校出身者の相良高校、榛原高校への進学者数の減少が主な要因と考えられる。

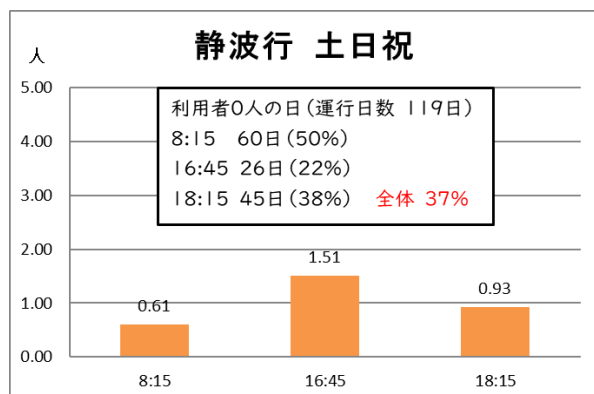
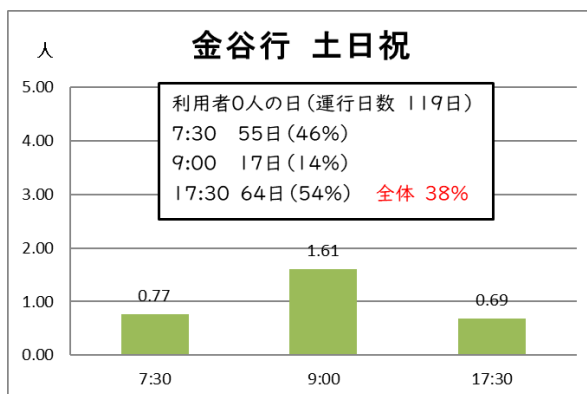
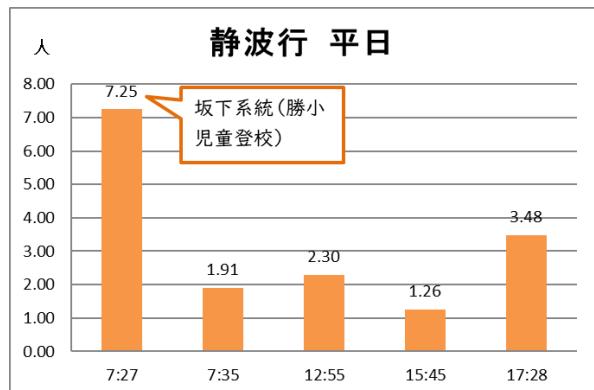
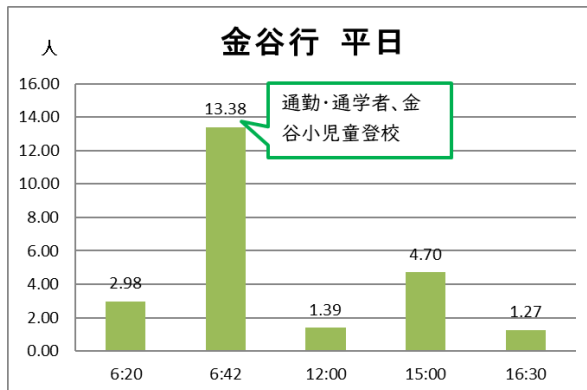
（R3：70 人、R4：68 人、R5：57 人）

【路線、便別利用者数】

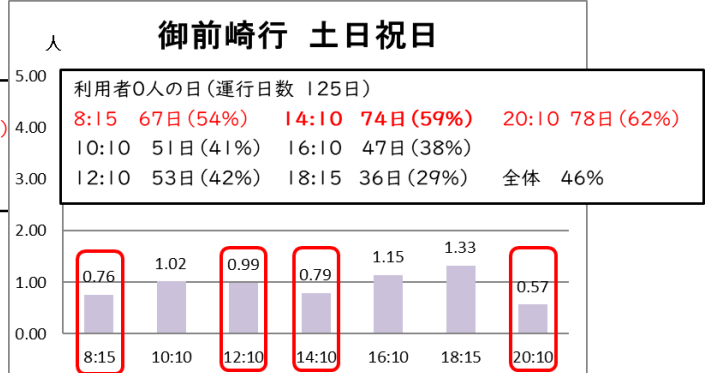
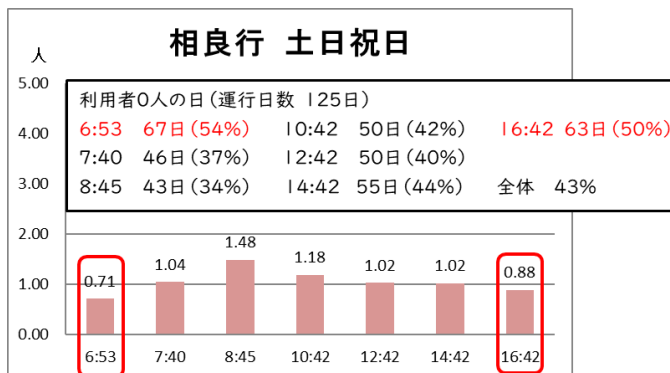
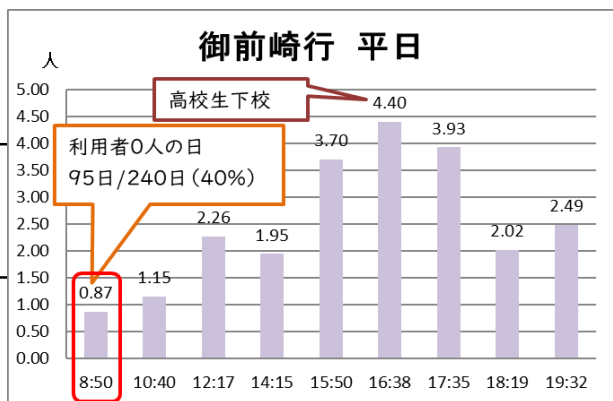
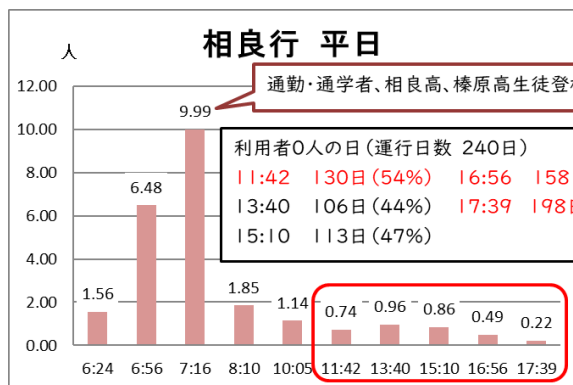
萩間線



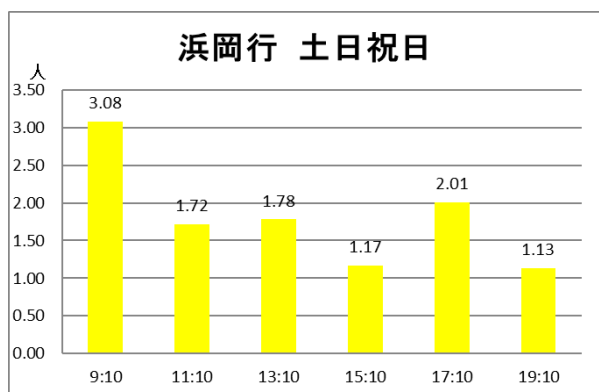
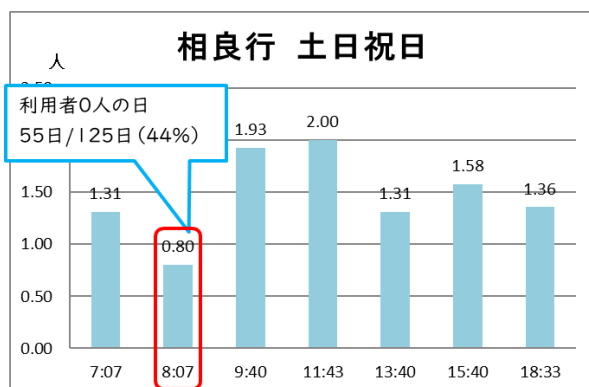
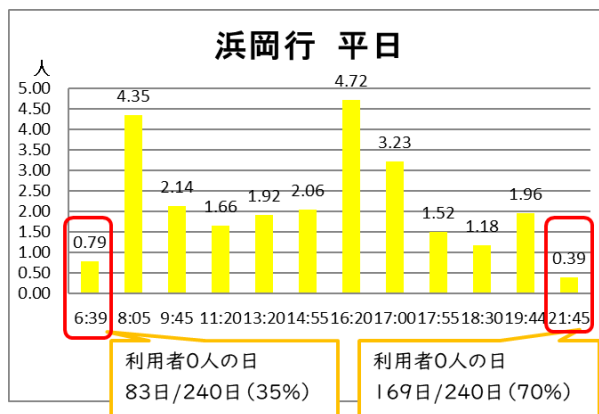
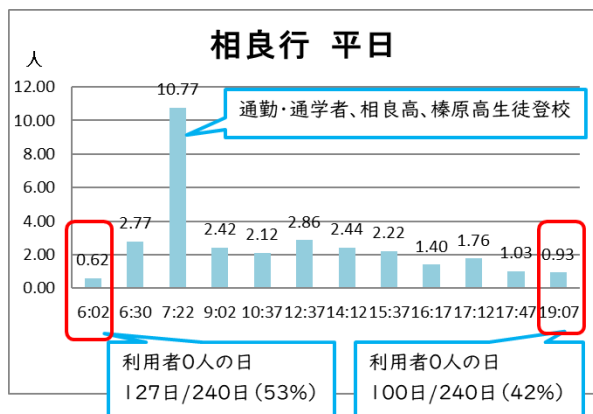
勝間田線



相良御前崎線

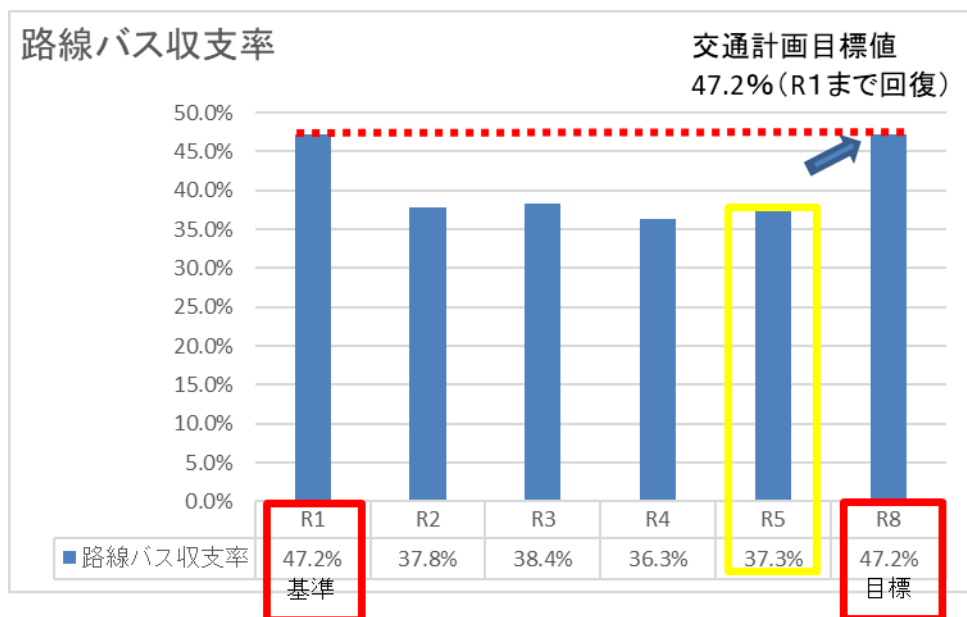


相良浜岡線



目標② バス収支率

バス	前年度 (R4)	実績 (R5確定)	前年度 比較	目標	目標 (R8)
路線バス (藤枝相良線、 島田静波線)	36.3%	37.3%	○	R1 数値 に回復	47.2%

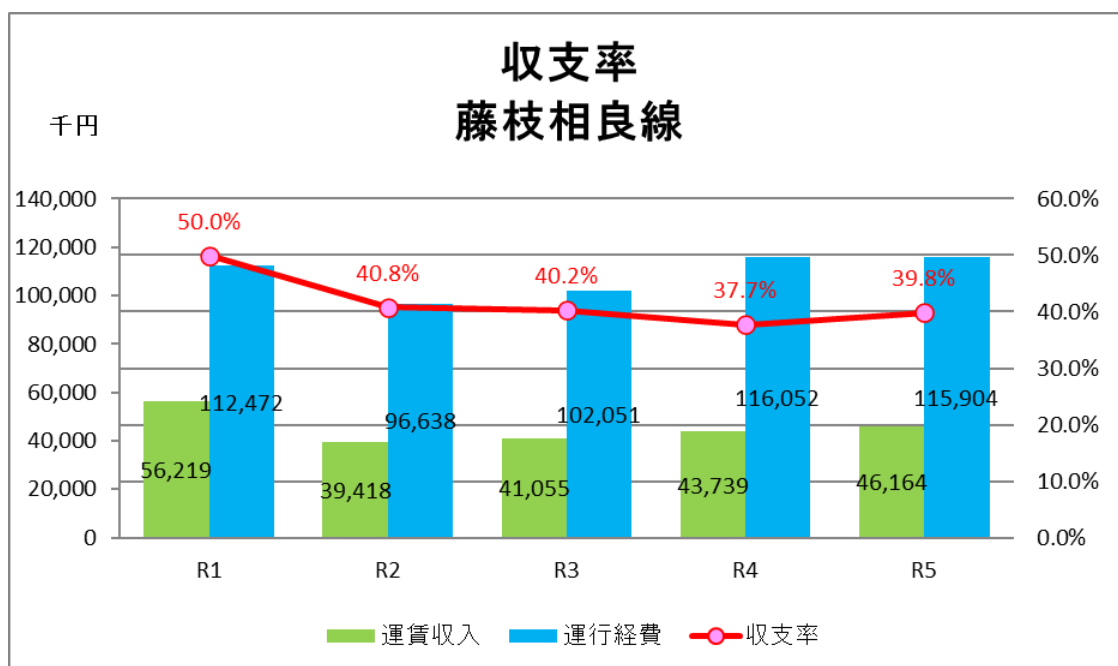
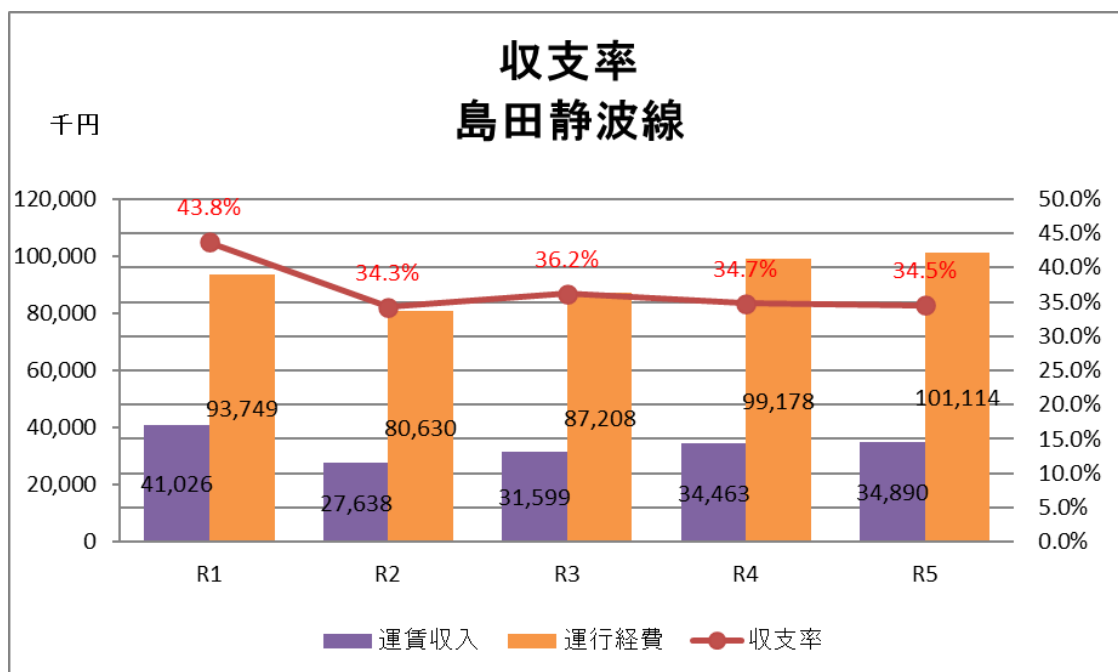


年度別収支率	路線	運賃収入 (千円)	運行経費 (千円)	収支率 (%)	2路線 計
R1	藤枝相良線	56,219	112,472	50.0%	47.2%
	島田静波線	41,026	93,749	43.8%	
R2	藤枝相良線	39,418	96,638	40.8%	37.8%
	島田静波線	27,638	80,630	34.3%	
R3	藤枝相良線	41,055	102,051	40.2%	38.4%
	島田静波線	31,599	87,208	36.2%	
R4	藤枝相良線	43,739	116,052	37.7%	36.3%
	島田静波線	34,463	99,178	34.7%	
R5	藤枝相良線	46,164	115,904	39.3%	37.3%
	島田静波線	34,890	101,114	39.8%	

(まとめ)

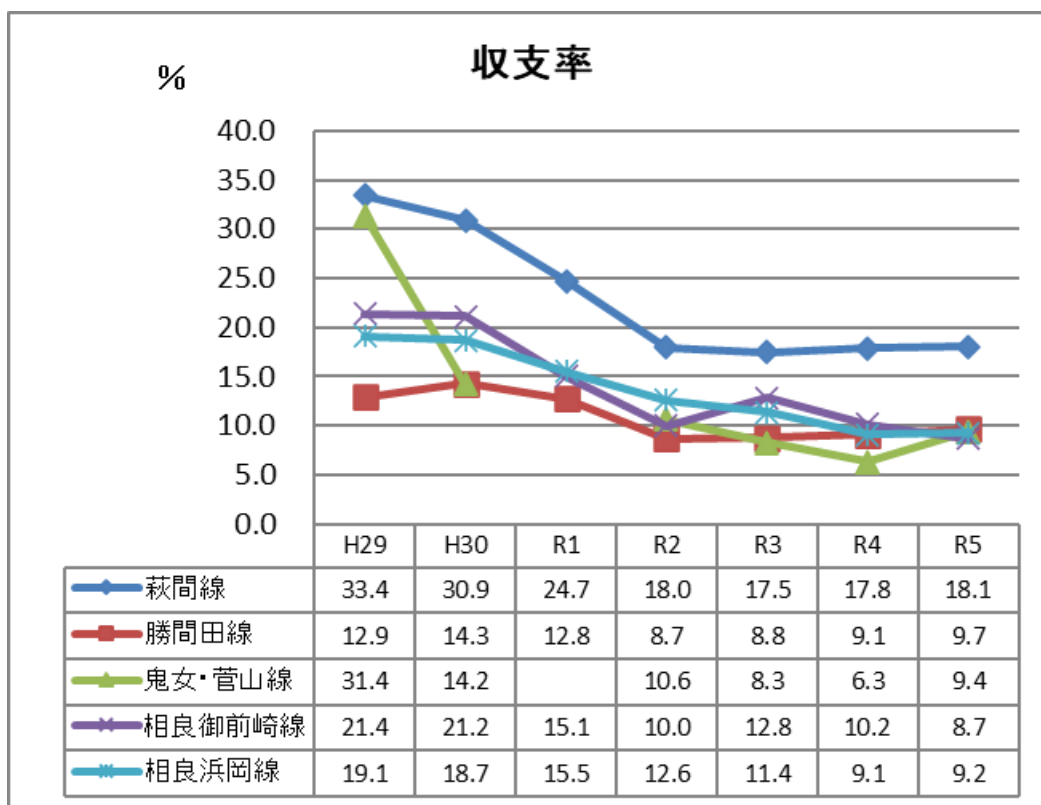
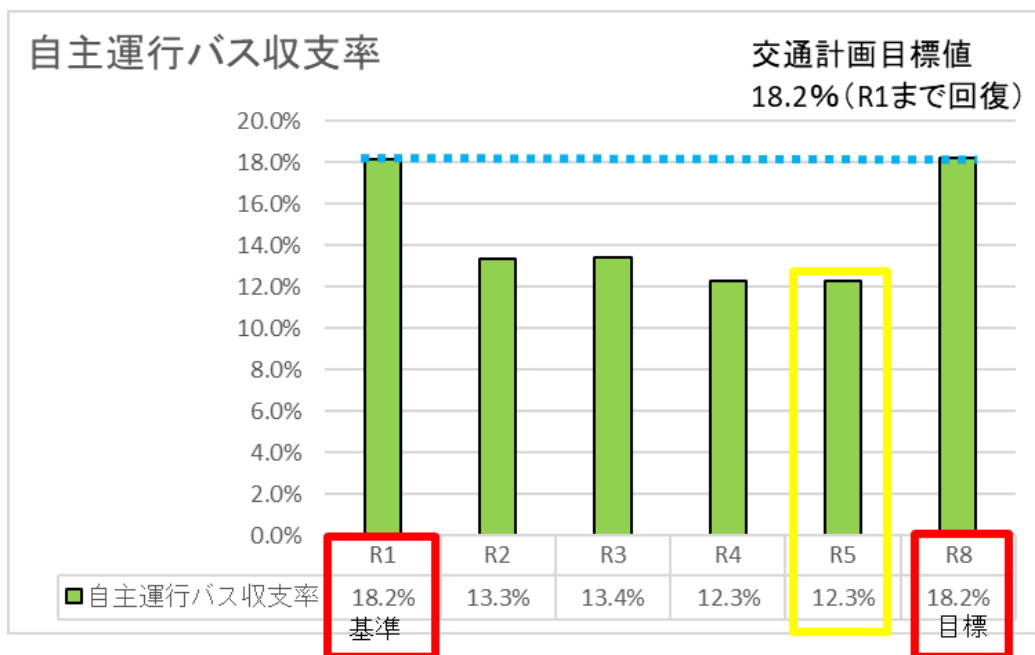
運賃収入は増えたが、運行経費が微減したため収支率は改善した。

近年の運転手不足対策や燃料高騰により、今後は運行経費の増加が続いていく可能性が高いため、バス事業者と共に対処策を検討する必要がある。



目標② バス収支率

バス	前年度（R4）	R5	前年度比較	目標	目標（R8）
自主運行バス （市営バス含む）	12.3%	12.3%	△	R1 数値 に回復	18.2%

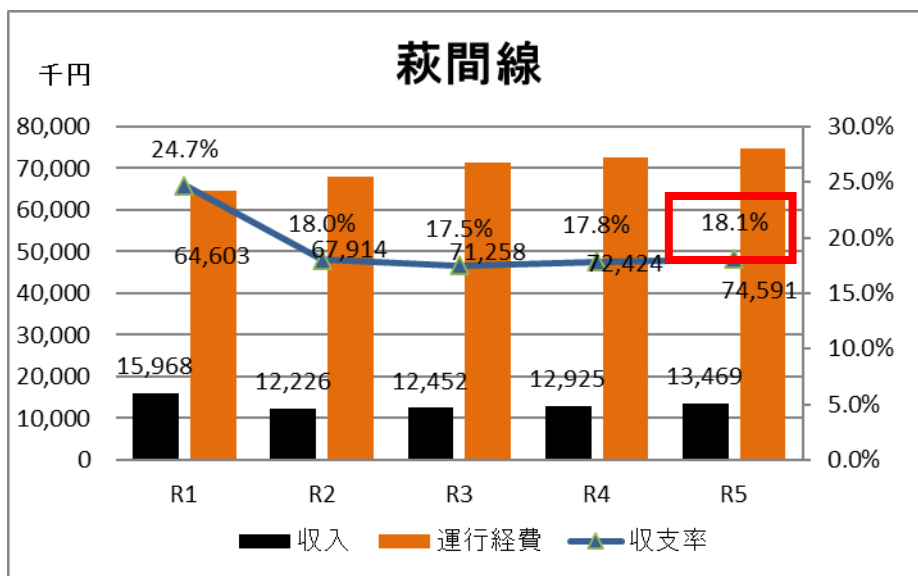


路線別収支率

年度別		萩間線	勝間田線	鬼女・菅山線	相良御前崎線	相良浜岡線	5 路線計
R4	収入	12,925	2,965	375	4,532	4,910	25,707
	経費	72,424	32,538	5,950	44,495	53,988	209,395
	収支率	17.8%	9.1%	6.3%	10.2%	9.1%	12.3%
R5	収入	13,469	3,242	401	3,958	5,066	26,135
	経費	74,591	33,440	4,402	45,969	55,506	213,954
	収支率	18.1%	9.7%	9.0%	8.6%	9.1%	12.3%

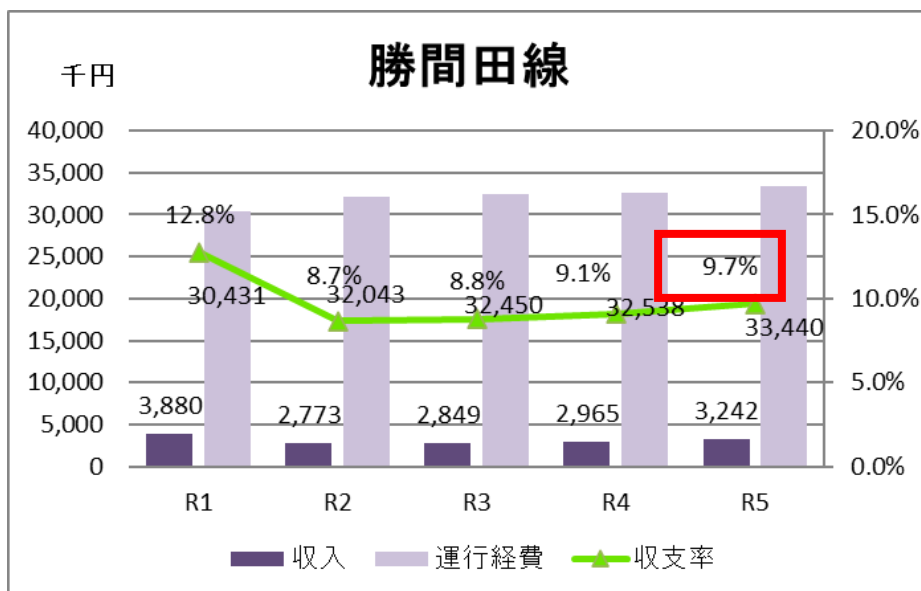
(まとめ)

- ・コロナによる減収が続く中、R2以降では最も高い運賃収入となったが、R1比では8割の回復に留まっている。運行経費の増加により収支率に変化はなし。
- ・運賃改定により増収が見込まれるが、近年の運転手不足対策や燃料高騰により、今後も運行経費の増加は続いていく可能性が高いため、バス事業者と共に対応策を検討する。



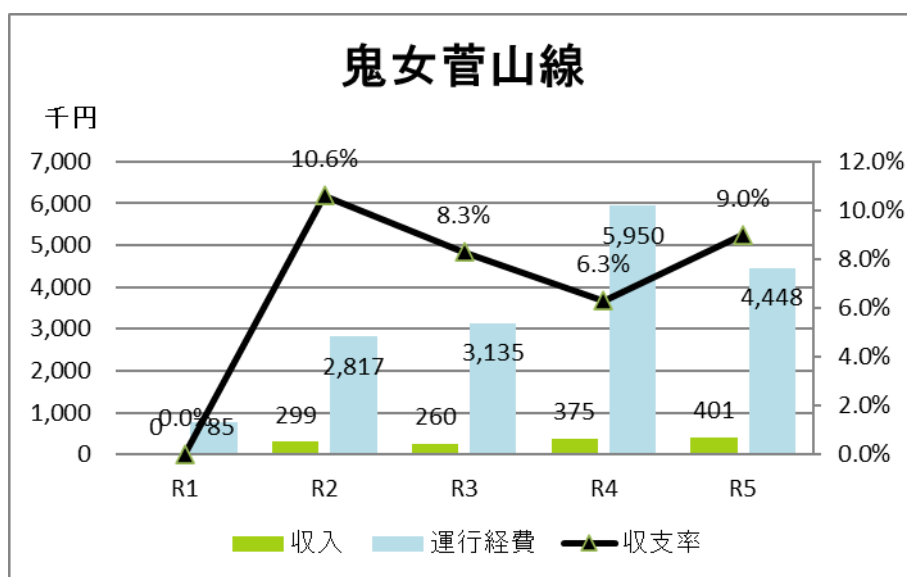
収支率は回復傾向にあるが、R1までの回復は見込めない。

将来的には高台エリアへの接続により、利用者数や運賃収入の増加が期待できる。



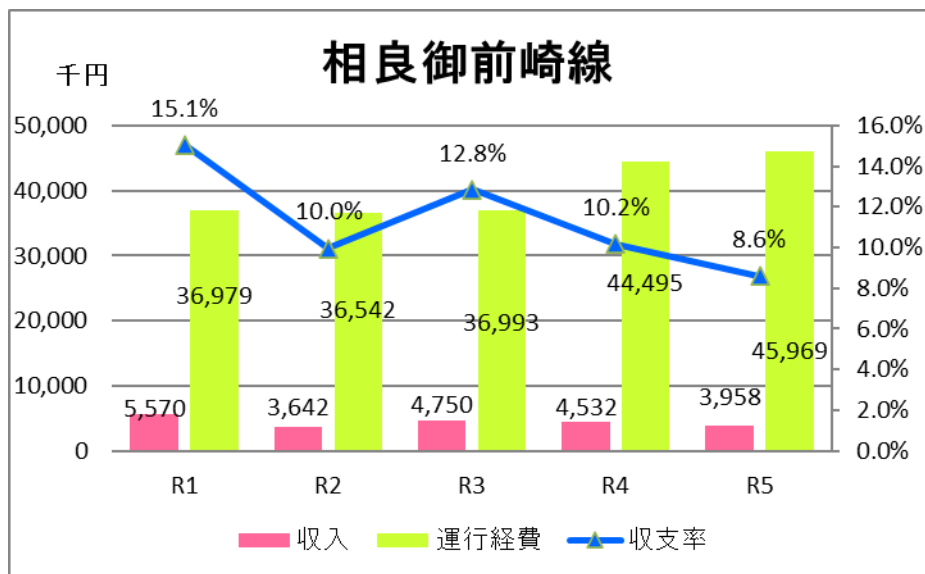
収支率は回復傾向にあるが、R1までの回復は見込めない。

勝小児童の通学手段として維持したいが、経費を抑制する方法を検討したい。(土日祝見直し)



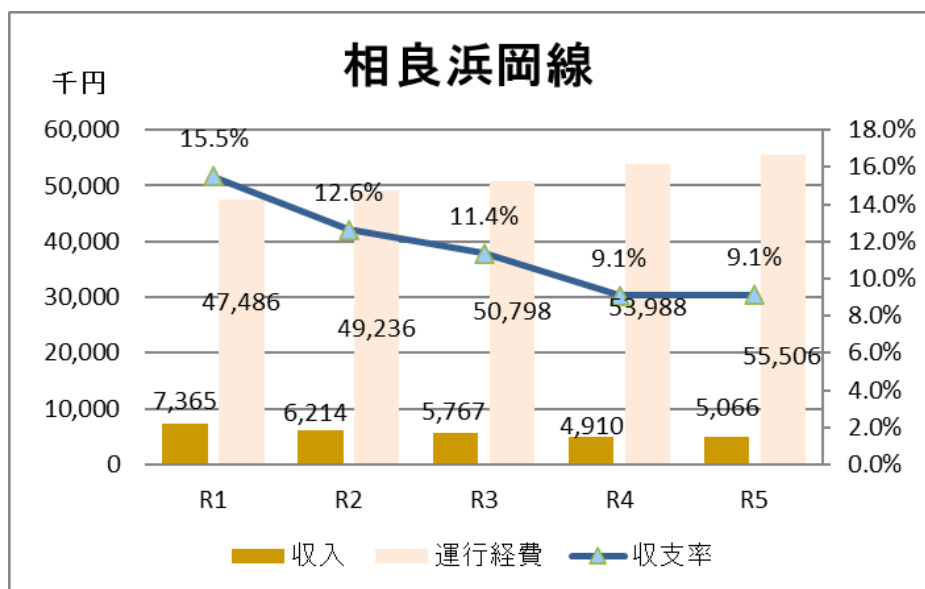
生徒、児童の人数に大きく影響を受ける。

高校生や一般の方も利用可能であることを地域へ周知して、利用者を増やしていきたい。



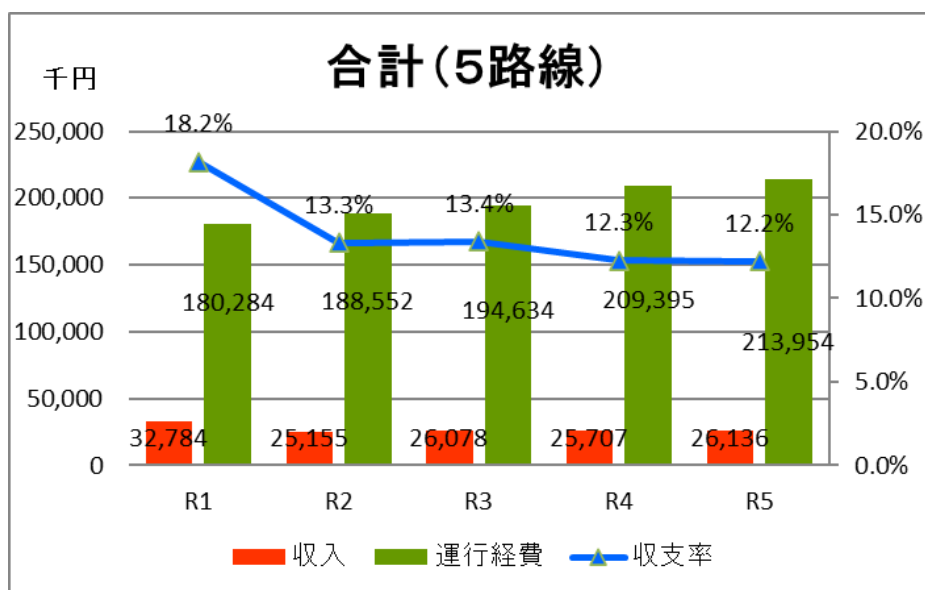
収支率は減少傾向で一桁代に落ち込み、5路線で最も低い収支率となった。

R6 運行からは、減便による経費の抑制を図ったが、相良高校、榛原高校への通学者の減少が続く場合、改善は難しい。



収支率は減少傾向にあり、一桁代に落ちこんでいる。

R6 運行からは、減便による経費の抑制を図ったが、相良高校、榛原高校への通学者の減少や特急静岡相良線の浜岡営業所系統への流出が影響しているか。



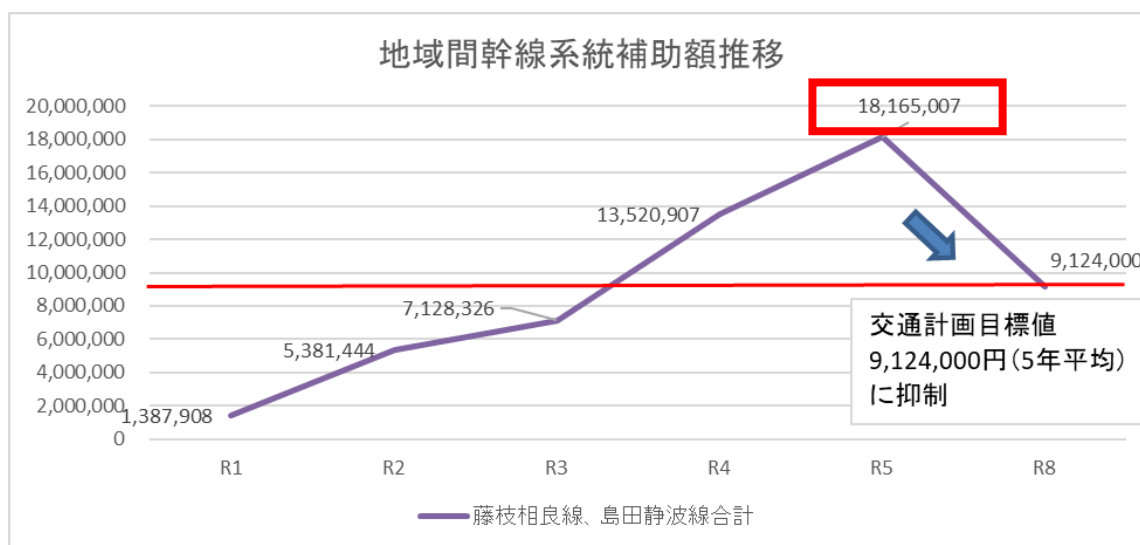
コロナ流行以降は、横ばいの状況。
運賃改定により増収となれば、若干の収支改善が可能である。

引き続き、路線の見直しによる収支改善を図っていく。

目標③ バス公的負担額

バス	前年度 (R4)	R5 実績	前年度 比較	目標	目標 (R8)
路線バス (藤枝相良線、 島田静波線)	11,125 千円	18,165 千円	×	R1 数値 に抑制	1,388 千円

※路線バスは、地域間幹線系統維持費補助金で補助する額とする



	島田静波線 (駅系統)	島田静波線 (病院系統)	藤枝相良線	合計
R1	805,143	582,765	0	1,387,908
R2	1,109,484	772,849	3,499,111	5,381,444
R3	1,393,025	1,923,033	3,812,268	7,128,326
R4	951,415	3,948,425	6,224,877	11,124,717
R5	491,385	2,996,452	14,677,170	18,165,007

(まとめ)

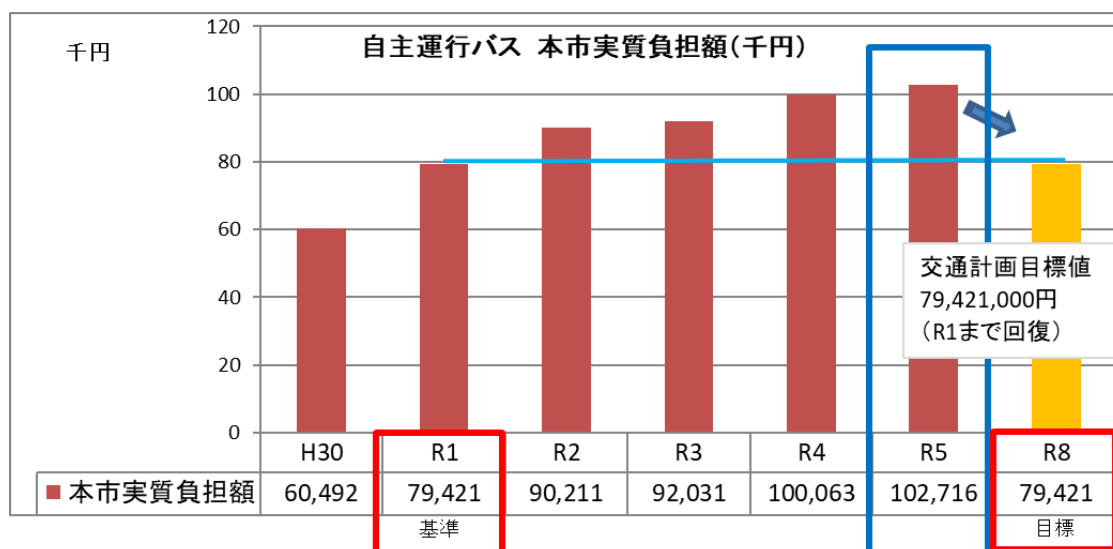
藤枝相良線の負担割合は約56%で、半分以上を牧之原市が負担しているため、当該路線の利用状況により、市の負担が大きく変わる。

(単年度評価未達成における改善策)

- ・両路線は、自主運行バスよりも圏域が広く、市にとって重要な路線であるため、関係市で連携した利用促進策を計画したい。

目標③ バス公的負担額

バス	前年度 (R4)	R5 実績	前年度 比較	目標	目標 (R8)
自主運行バス (市営バス含む)	100,063 千円	102,716 千円	×	R1 数値 に抑制	79,421 千円



路線別の実質負担額

(千円)

	R4	R5 実績	推移
萩間線	32,189	32,907	+718
勝間田線	17,400	17,908	+508
鬼女・菅山線(市営)	4,934	3,105	-1,829
相良御前崎線	21,474	23,977	+2,503
相良浜岡線	24,066	24,819	+753
合計	100,063	102,716	+2,653

(まとめ)

本市実質負担額は、前年度から約 260 万円の増額となった。

相良御前崎線は前年度比約 250 万円の増額となった。

R6 は、自主運行バス相良御前崎線、相良浜岡線の便数の見直しにより、負担額の抑制を図っているが、その他の路線の経費が上昇し、運賃収入の減少が続けば、全体としては大きな効果を得られない可能性がある。

(単年度評価未達成における改善策)

便数の見直しや土日祝運行の是非を検討し、公的負担額の抑制に努める。

基本方針2に関する目標

基本方針2のデマンド乗合タクシーに関連する目標として、デマンド乗合タクシーの利用者数、バス収支率に変えて効率性を示す乗合率、周知の目安となる会員登録者率（75歳以上人口に占める割合）の3つの目標を設定します。

利用者の利便向上に関連する目標として、公共交通利用者の利便向上を計る目安になる利用者アンケートの満足度を設定します。

利用促進に関連する目標として、モビリティマネジメントの取組件数と参加者数を設定します。

デマンド乗合 タクシー関係	前年度 (R4)	R5 実績	前年度 比較	目標	目標 (R8)
目標④ 年間利用者数	2,877 人	3,578 人	○	増加	4,600 人

号別利用者数

号	R 4 利用者数	R 5 利用者数	傾向	前年度比 (%)
さかべ号	4 4 6	2 2 1	▼	49.6
かつまた号	3 5 9	2 9 1	▼	65.2
しずなみ・かわさき号	1 8 3 (5 か月)	7 5 2	↗	411.0
ほそえ号	9 3 (5 か月)	1 5 0	↗	161.3
すげやま・はぎま号	9 3 4	8 6 3	▼	92.4
じとうがた号	3 8 7	3 5 1	▼	90.7
さがらひがし号	1 0 7 (4 か月)	3 4 4	↗	321.5
さがらにし号	4 4 (4 か月)	1 8 9	↗	429.5
まきのほら号	3 2 4	4 1 7	↗	128.7
合計	2,877	3,578	↗	124.3

(まとめ)

市街地は増加傾向にあるが、さかべ号、かつまた号といった初期に導入を開始した地域は減少傾向にあるため、時期を見て周知を図っていく。

デマンド乗合 タクシー関係	前年度 (R4)	R5 実績	前年度比較	目標	目標 (R8)
目標⑤ 乗合率	1.42 人	1.31 人	×	向上	1.5 人

号別の乗合率

	R 4 乗合率	R 5 乗合率	傾向
さかべ号	1. 3 4	1. 1 4	↘
かつまた号	1. 3 1	1. 1 0	↘
しずなみ・かわさき号	1. 1 2	1. 1 4	↗
ほそえ号	1. 1 3	1. 0 4	↘
すげやま・はぎま号	1. 7 4	1. 5 1	↘
じとうがた号	1. 2 4	1. 4 9	↗
さがらひがし号	1. 1 3	1. 1 8	↗
さがらにし号	1. 2 9	1. 2 0	↘
まきのほら号	1. 6 4	1. 7 9	↗
合計	1. 4 2	1. 3 1	↘

(まとめ)

市街地 4 地区で乗合率が低くなるため、全体の乗合率は低下している。特に市街地の「ほそえ号」は、1.1 を下回り、現状では県の補助対象外になってしまう。

(単年度評価未達成における改善策)

- ・ R6 からさかべ号で高齢者サロン利用者の臨時便の運行を開始し、乗合率が高まっている。

- ・ 乗合率を高めるために以下の変更を予定

① 予約時間の変更

行き 30 分前までの予約を 1 時間前とすることで、タクシー事業者の乗合経路検討の時間を増やす。

② 運賃の統一

R6 から号の統合を行ったが、従前の運賃を引き継いでいるため、運転手が混乱してしまうために別々に配車しているため、運賃の統一を図る。

デマンド乗合 タクシー関係	R4 年度末	R5 年度末	前年度 比較	目標	目標 (R8)
目標⑤ 会員登録率	13.2%	14.3%	○	向上	15%

号別の会員登録率 (R6.4.1)

	R 4 登録率	登録者数/75 歳以上 (人)	R 5 登録率
さかべ号	21.5%	85/421	20.1%
かつまた号	26.2%	115/476	24.2%
しずなみ・かわさき号	8.7%	156/1,478	10.6%
ほそえ号	8.9%	104/1,032	10.1%
すげやま・はぎま号	18.3%	171/969	17.6%
じとうがた号	15.8%	126/831	15.2%
さがらひがし号	7.9%	94/799	11.8%
さがらにし号	6.3%	88/896	9.8%
まきのはら号	27.6%	107/422	25.4%
合計	13.2%	1,046/7,324	14.3%

(まとめ)

市街地の4号は順調に登録者数が増えているが、利用者数と同じく初期に導入した地域は登録率が減少していた。高齢者数の増加が要因ではあるが、引き続き周知を強化していく。

目標⑦ 利用者満足度		基準値 (R4)	評価	R8
バス	利用者調査による	56%	向上	72%
デマンド		72%	向上	80%

※利用者満足度は、本計画策定の調査の一環として実施。計画期間中間の令和6年度末と最終年度の令和8年度に令和4年度と同じ方法で実施し、いずれも「利用しやすい」を基準値とし、どちらでもない（普通）のの半数が「利用しやすい」へ移行することを目標とする。

令和6年度末と令和8年度にアンケート調査を実施予定。単年度評価はしない。

モビリティマネジメント関係	前年度 (R4)	R5 実績	前年度比較	目標	目標 (R8)
目標⑧ 取組件数	10 項目	10 項目	○	増加	年間 10 項目

(R5 取組状況)

	内容	備考
①	広報、ホームページへの掲載	広報 8 月号特集記事
②	地域協議会（区会）でのデマンド説明	19 区（6 区は回覧のみ）
③	デマンド乗合タクシー回覧配布	全 25 区実施
④	福祉部署との連携（主任ケアマネ会議、高齢者福祉部会への出席）	デマンド乗合タクシー周知、意見交換
⑤	デマンド乗合タクシーのオンライン申請整備	会員登録のオンライン申請導入
⑥	デマンド乗合タクシーの使い方動画の作成	わかりやすい説明が可能となった
⑦	高齢者サロンでのデマンド説明	要望により随時実施
⑧	高校、企業との意見交換	榛原高校、矢崎部品(株)との協議
⑨	バスの魅力発見ツアーへの協力	藤枝相良線を運行する飲食ツアー
⑩	地域リーダー育成プロジェクト出席	中部運輸局主催の中高生写真コンテストの周知

※同一内容の複数の取組については、1 事業としてカウント

(まとめ)

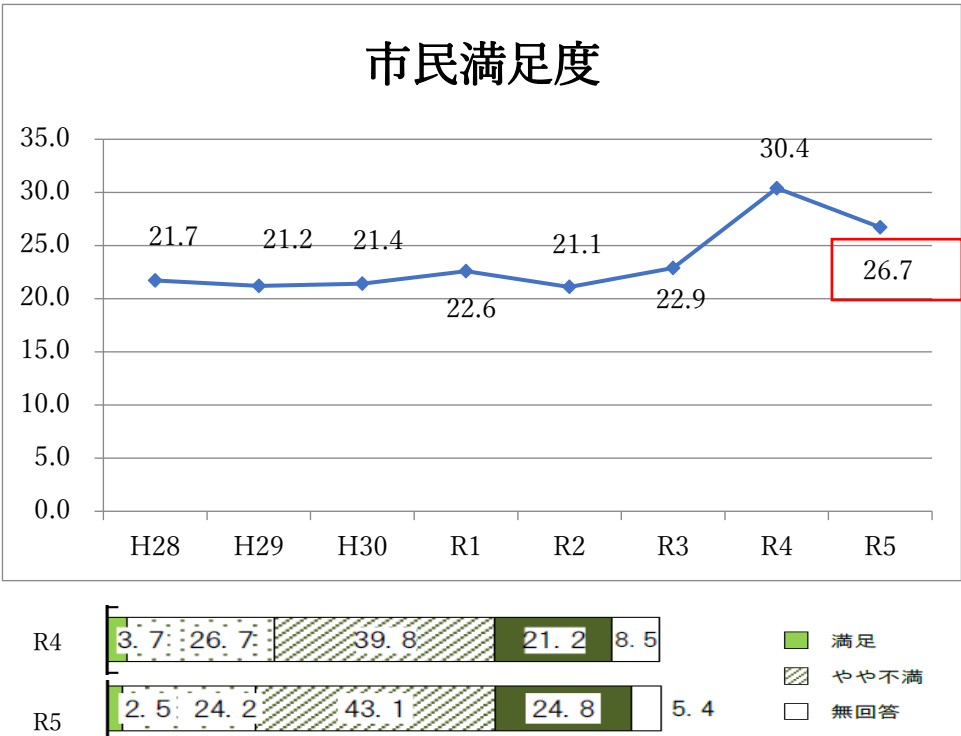
新型コロナウイルスの流行が落ち着いたことから、積極的に事業を実施することができた。

R5 はデマンド乗合タクシーの周知を目的に全区にチラシを配布し、地域協議会での説明も実施した。

基本方針3に関する目標

基本方針3は、総合計画の重点・戦略プロジェクトとの連携であるため、間接的に公共交通へ影響を与える取組となることから、ここでは、毎年市が実施している「市民意識調査」における公共交通の満足度を設定します。

モビリティマネジメント関係	前年度 (R4)	R5 実績値(確定)	前年度 比較	目標	目標 (R8)
目標⑨ 市民意識調査における公共交通の満足度	30.4%	26.7%	×	向上	40%



(まとめ)

R4 数値からは落ちたが、R3 以前よりも高い数値を維持した。

不満、やや不満が60%から67.9%に増えた。

特に地頭方地区、牧之原地区に大きな変化があった。

	R4	R5
地頭方地区	満足 2.9% やや満足 30.0% やや不満 28.6% 不満 25.7%	満足 0% やや満足 13.7% やや不満 56.2% 不満 21.9%
牧之原地区	満足 9.5% やや満足 31.7% やや不満 36.5% 不満 19.0%	満足 0% やや満足 20.0% やや不満 41.8% 不満 34.5%

自由意見

バスに関する意見 2件

	性別	年齢	居住地区
静岡相良線の高速バスで、静岡駅からの休日の夜の本数を増やしてほしい。	女性	20～29 歳	川崎
高齢者が、運転免許がなくても自由に行動できるコミュニティバスなどの運営を検討してほしいです。乾電池の回収がないので困っています。ビンの回収についても、車がないと回収所へ持っていく事も困難で困っています。	女性	60～64 歳	萩間

交通全般に関する意見 22件

	性別	年齢	居住地区
バスの本数を増やすなどの公共交通機関の充実や、交通違反の取り締まりと防犯パトロールを強化してほしい。地域活性化のため、市でのイベント回数を増やしてほしい。相良にあるい～らを使ったイベントの数を増やしてほしい。	男性	19 歳以下	地頭方
車がないと何もできないので不便。	男性	30～39 歳	静波
公共交通機関の充実、バスの運行時間の延長など。	男性	30～39 歳	勝間田
電車やバスの公共交通機関の充実を実現していない。	男性	40～49 歳	川崎
やがて車の運転もできなくなり、買い物、病院どうする、不安でしかない。	男性	60～64 歳	萩間
軽便鉄道駿遠線の現代版の復活。空港→茶畑→富士山→沿岸線のルートで、御前崎港→その地域へ。	男性	65～69 歳	静波
交通の便が悪すぎる。通学にも最適な交通手段がなく、友人と交流する機会が減っている。車がなくても生活しやすくするべきだと思う。人を増やすために新しい施設を作るなら、地価の安さを活かして、通学、通勤しやすくすれば住む人は増えると思う。ただでさえ財政的に厳しいので、施設の建て替えは最小限にするべきだと思う。もっと計画的で公立的な政策を優先してほしい。市民も財政的な余裕はないので少しでも補償していただけると嬉しいです。コロナ禍の影響で地域の交流が減ってしまったので、以前の活動が復活してくるのを楽しみにしています。	女性	19 歳以下	地頭方

交通の便が悪い。遊べる所が少ない。スーパーが近くにない。	女性	19 歳以下	勝間田
最寄りの駅が遠い。バスの本数が少ない。とにかく交通の便が悪すぎる。近くに商業施設がないため日常に楽しみを感じない。	女性	19 歳以下	牧之原
田舎が多く自然いっぱい良い所だが、その分交通の便が悪く店も少ないので、もう少し暮らしやすいまちにしてほしい。祖母など、車を運転する事をやめても気軽に買い物など行けるような環境になってほしい。相良のまちをもう少し活性化してほしい。買い物しやすいように店を増やしてほしい。	女性	20～29 歳	萩間
駅が近くにないので不便だと感じる事が多い。バスも、時間と行き先が限られているので困る事がある。また、映画館やショッピングモールなどの娯楽施設がないので、子どもや若者が遊ぶような場所がない。公共交通機関や商業施設が不便だと感じる事が多いので、高校卒業後市外へ出てしまう人が多いと感じた。	女性	20～29 歳	静波
公共交通機関の整備ができていない。バスも1～2時間に1本あるが、時間通りに来る事が少なく困る事が多い。また、同年代の友人が牧之原市に来ると、「茶畑しかない」「夜道が暗い」と口を揃えて言っていた。こうした環境整備を充実させるべきだと思う。子育て施設に関しては、相良のいこつなど図書館や教育制度の充実、子育てのしやすさについては取り組んでいると感じている。	女性	20～29 歳	牧之原
両親、義両親とも牧之原市に住んでいるので、市内に住みたい気持ちはあるが、夫も私も通勤に電車は必須であるため住む事はできない。電车站へのアクセスが良い、または新幹線駅があるなど交通機関拡充があればと思う。働き盛りに市外に住めば市外に家を建てたりもするし、そうなれば定年過でも転職しても牧之原市には戻れない。	女性	20～29 歳	坂部
交通の便が悪い。飲食店がどんどん潰れていたりするのに対策強化をしないので、どんどん不便になっていく。もっと何とかしてほしい。チェーン店などももっと誘致して便利にしてほしい。	女性	30～39 歳	波 津 ・ 須々木
日常生活の中で、車での行動が必要です。高齢になり、車での運転も不安になってきました。救急車の受け入れ先も、島田、焼津、藤枝と1時間位かかるので家族の入院の時にもう少し近くにあればと感じました。	女性	60～64 歳	地頭方
今は自分で運転して、食料・日用品などの買い物、医療機関へ通院など、不便はありませんが、将来運転できなくなった時、生活の質が極端に低下してしまうのが心配です。	女性	65～69 歳	牧之原
今はまだ運転ができるので買い物など行く事ができますが、車がなければ足腰が弱くなるので自由に買い物や図書館などへも行けなくなります。行動範囲が狭くなるのが不安です。災害の時なども、歩くのが遅くな	女性	70～79 歳	相 良 ・ 福

ってきているので階段を登ったり降ったり、高い所への避難は難しくなってきました。			岡
免許証を返納する年代になったのですが、その後が不安です。全てデジタル化で老人には大変な世の中になりました。	女性	70～79 歳	大江・片浜
あと何年かすると、免許証を返納する時が来る。病院へ行ったり買い物行ったりする事もできなくなる。年金も介護保険が上る一方、もらう年金は下がる。物価も上がり、これからの生活が大変になる。	女性	70～79 歳	大江・片浜
歳を重ね、自動車の運転ができなくなり、通院や食料品の買い物、介護に不満が出てくると思います。いつまでも長生きをし、皆さんにお世話になりご迷惑をかけるのがつらいです。	女性	70～79 歳	地頭方
2年前に主人が車の免許返納を行ったので、少し不便です。夫婦の二人の生活。子どもたちはそれぞれの家庭があり独立しているので、たまに会う事で良い環境で暮らしています。健康に気を付けて毎日目標を持って、1日1日自分なりの計画を立てて過ごしています。76 歳になっても病院にかからず、薬も飲みません。歯の治療は定期的に行っているのので 28 本あり、内治療済みは 14 本です。健康に感謝して過ごしています。	女性	70～79 歳	細江
車がないと生活できない事や、お店や病院の少なさなど住みづらさを感じています。	回答なし	20～29 歳	牧之原

デマンド交通試験運行の評価について

牧之原市 地域振興課

事業評価

目標達成状況、アンケートの結果を検証し、試験運行期間終了3カ月前時点で、直近3カ月の利用状況で事業評価を行う。

主な指標		達成目標	本格運行移行基準
利用状況	登録者数	運行地域の75歳以上の1/3以上	なし
	利用者数	3.6人/日以上	1.1人/日以上
	稼働率	30%以上	12.5%以上
	乗合率	1.5人/便以上	1.1人/便以上
費用効率	収支率	30%以上	22.5%以上
	1人当たり経費	1,460円以下	2,000円以下
	市負担額	1,520円/便以下	1,700円/便以下

	達成目標	本格運行移行基準
登録者数	運行地域の75歳以上の1/3以上	交通弱者対策のため、登録者数は考慮しない。
実績運行回数※ (計画運行回数×利用率)	8便/日×30%=2.4便	8便/日×12.5%=1.0便
利用者数 (実績運行回数×平均乗車人数)	2.4便×1.5人/便=3.6人/日	1.0便×1.1人/便=1.1人/日
稼働率 (実績運行回数/計画運行回数)	30% 国補助金交付要件	12.5%
乗合率 (利用者数/総実績運行回数※)	1.5人 県内デマンド運行平均	1.1人 県補助金交付要件
収支率 (運賃収入/運行経費)	$(500円 \times 1.5人 \times 0.9※) / 2,200円 = 30\%$	$(500円 \times 1.1人 \times 0.9※) / 2,200円 = 22.5\%$
1人当たり経費 (運行経費※/利用者数)	2,200円/1.5人=1,466円	2,200円/1.1人=2,000円
市負担額 (運行経費－運賃収入)	2,200円－675円=1,525円/便	2,200円－495円=1,705円/便

※実績運行回数:複数配車でも1とした実績運行回数

※総実績運行回数:総ての運行した回数(複数配車の総数)

※0.9:お試し乗車券、無料券の配布による運賃収入の減少による。

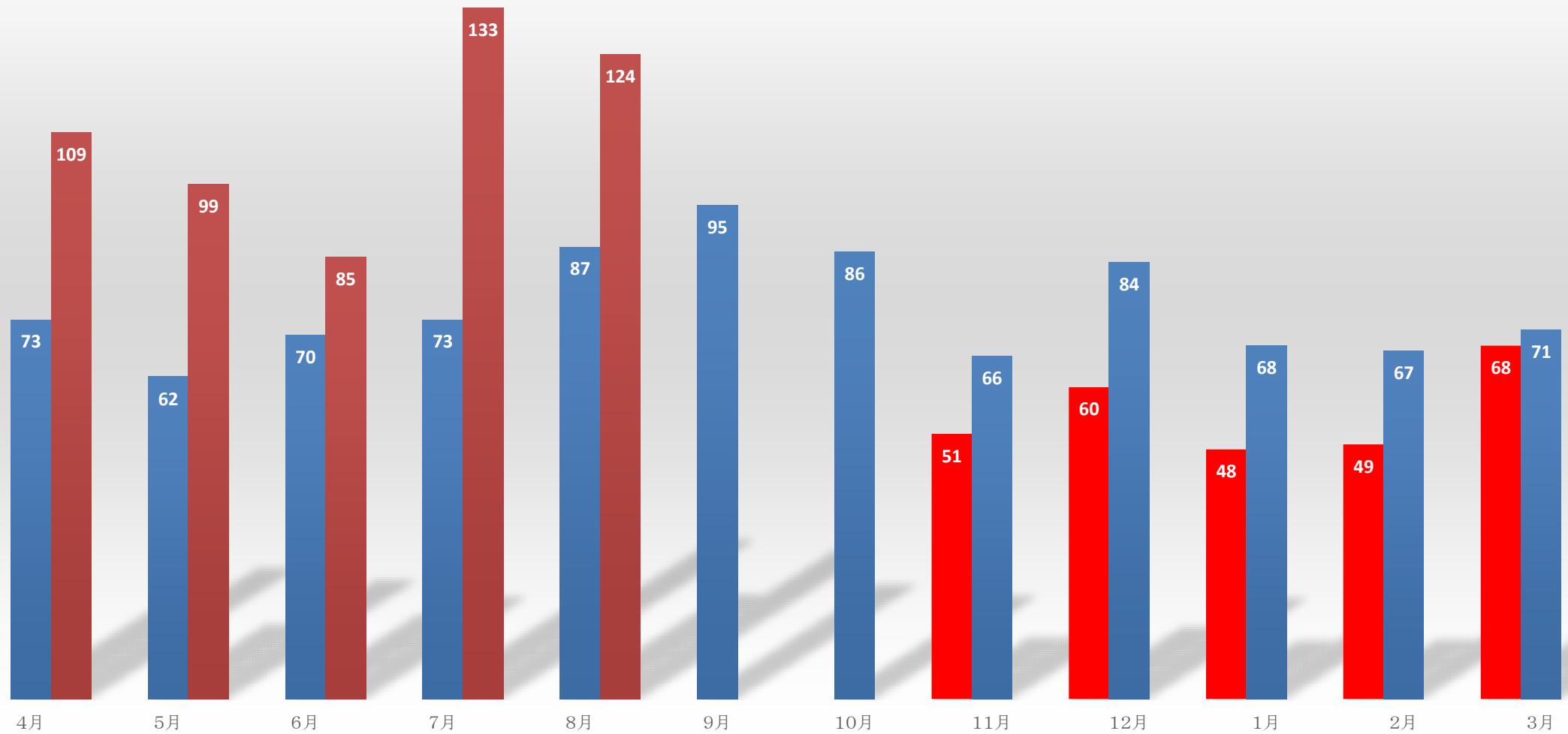
※運行経費:総実績運行回数の経費

しずなみ・かわさき、ほそえ号

主な指標		現状(6月～8月)	本格運行移行基準
利用状況	登録者数	278名	なし
	利用者数	9.21人/日	1.1人/日以上
	稼働率	57.6%	12.5%以上
	乗合率	1.08人/便	1.1人/便以上
費用効率	収支率	17.4%	22.5%以上
	1人当たり経費	1,868円	2,000円以下
	市負担額	1,671円/便	1,700円/便以下

しずなみ・かわさき、ほそえ号月別利用者数

■ R4 ■ R5 ■ R6



しずなみ・かわさき号 考察

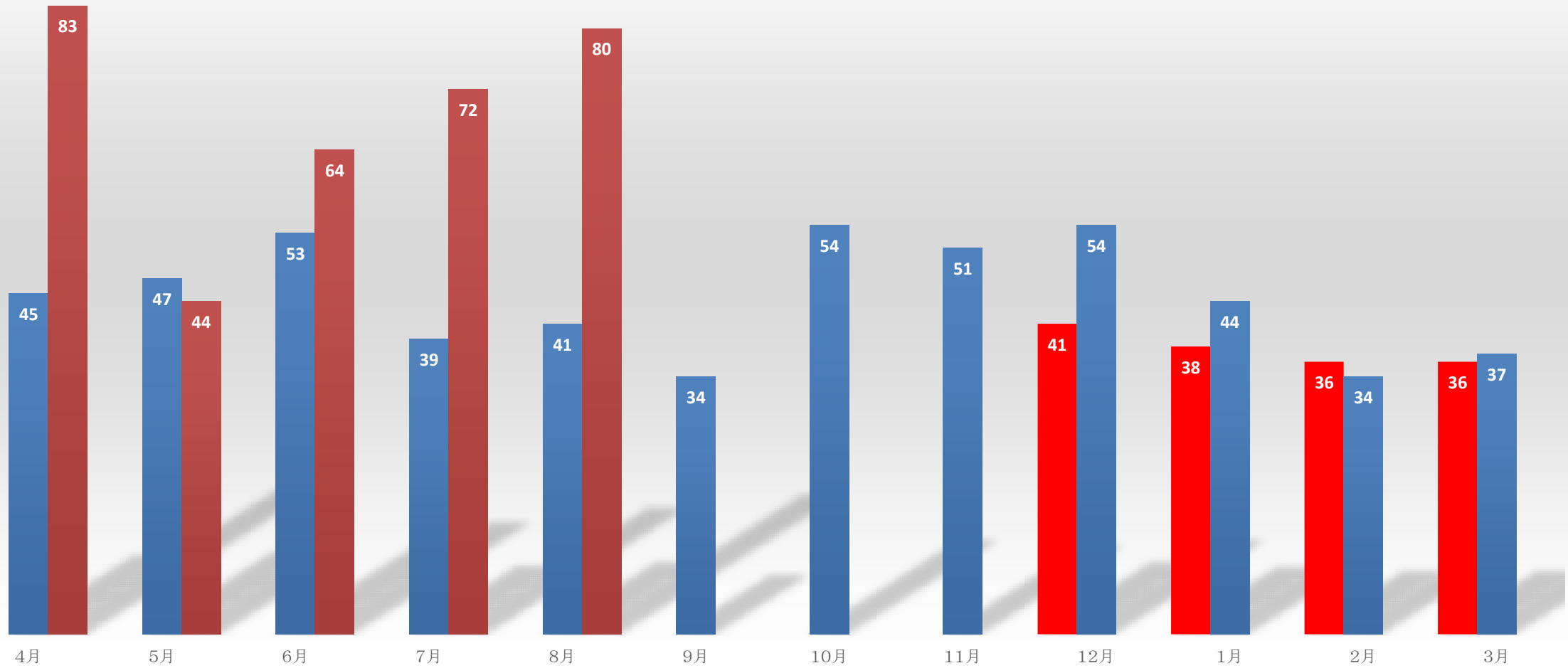
- 乗合率、収支率において移行基準を満たしていない。
- 利用者のほとんどが250円、350円区間での利用となっていることから収入が少なく、1人あたりの収支率としては10%程度になってしまうケースが多い。
- 利用者は増えているので、乗合率が上がれば解決すると思われる。

さがらひがし、さがらにし号

主な指標		現状(6月～8月)	本格運行移行基準
利用状況	登録者数	86名	なし
	利用者数	5.85人/日	1.1人/日以上
	稼働率	47.4%	12.5%以上
	乗合率	1.16人/便	1.1人/便以上
費用効率	収支率	18.6%	22.5%以上
	1人当たり経費	1,618円	2,000円以下
	市負担額	1,523円/便	1,700円/便以下

さがらひがし、さがらにし号月別利用者数

■ R4 ■ R5 ■ R6



さがらひがし、さがらにし号 考察

- 収支率において移行基準に未達
- 移行基準設定当時より、初乗り運賃が60円、予約料300円、加算運賃は90円のまま変わらないが、距離が短くなっている。
- 運賃値上げ前で想定をすると収支率は23.1%と、基準はクリアしている。

1 全体の運行方針

① 運賃改定による、収支率の改善および料金形態の煩雑さの解消

2024 年問題による運転手の待遇改善や、燃料費の高騰、半導体不足による自動車の修繕費の高騰など、タクシー業界を取り巻く状況は厳しい状況にある。当市が委託する東海タクシー(株)および御前崎タクシー(株)でも令和 5 年 9 月に運賃値上げに踏み切る等に対応をしている状況である。そういった経費を取り巻く状況が運行開始当初から変わっていること、運賃の区分けが多いことによる事務の煩雑さの解消という 2 点を目的に牧之原市デマンド乗合タクシーの運賃値上げを実施したい。

○かつまた・まきのはら号

勝間田区：水、木、金

牧之原区：月（相良）・水、金（榛原）

	かつまた・まきのはら新	かつまた旧	まきのはら旧
勝間田地区	300	250	350
牧之原地区	300	350	250
坂部、榛原	600	500	
萩間、相良	600	500	
地頭方地区	1000	1000	

○さかべ号

坂部区：火・木（サロン開講日のみ金）

	さかべ新	さかべ旧
坂部地区	300	250
榛原	600	500
吉田町	600	500
相良	1000	1000

○しずなみ・かわさき、ほそえ号

静波区、川崎区、細江区：月、火、金

	新料金	しずなみ旧	かわさき旧	ほそえ旧
静波地区	300	250	250	350
川崎地区	300	250	350	350
細江地区	300	350	350	250
坂部・牧之原	600	500	500	500
相良地区	1000	600	600	700
片浜地区	1000	350	350	500
萩間地区	1000	1000	1000	1000

○すげやま・はぎま号

菅山区・萩間区：火・水・金

	すげやま・はぎま新		すげやま旧	はぎま旧
菅山地区	300		250	500
萩間地区	300		650	250
相良市街地	300	600	350	500
牧之原地区	600		650	500
片浜・地頭方	600		650	750
榛原	1000		1000	1000

○さがらひがし、さがらにし号

相良区、福岡区、大沢区、大江区、波津区、須々木区：月、火、金

	新料金	ひがし旧	にし旧
相良	300	250	250
片浜・菅山	300	350	350
地頭方・萩間	600	500	500
静波	1000	600	600
細江	1000	700	700
坂部	1500	1500	1500

○さがらひがし、さがらにし号（かたはま）

片浜区：月、火、金

	かたはま新	かたはま旧
片浜地区	300	250
相良市街地	300	350
菅山・萩間・地頭方	600	650
静波	600	350
細江	600	500
坂部	1000	1000

○じとうがた号

地頭方区：月、木

	じとうがた新	じとうがた旧
地頭方地区	300	250
相良市街地	600	500
御前崎市	600	500
片浜・萩間	800	750
榛原	1000	1000
坂部地区	1500	1500

※青は実質的に値下げになる区分、橙は実質的に値上げになる区分を示す。

②デマンド乗合タクシーの運行時間の変更

市街地以外の地域では以下のような運行時刻としており、予約は 8:30 の便は前日まで、それ以外の便は 30 分前までに予約するようになっている。しかし、30 分前に予約が入ると、すぐにお迎えに行かなければ間に合わない事象が多発しており、乗合の可否を検討する時間がないのが現状である。そこで、**予約のルールを往路（自宅から特定施設まで）は 1 時間前まで、復路（特定施設から自宅）および特定施設間移動は 30 分前までとし、運行時間を下記のとおりとする。**

☆かつまた号、さかべ号、じとうがた号

	1 便	2 便	3 便	4 便
●●から特定施設へ	9:00	10:00	11:00	14:30
	1 便	2 便	3 便	4 便
特定施設から●●へ	10:30	11:30	13:00	16:30

※ただし、さかべ号金曜日のサロン臨時運行については従来通り 8:30 の運行とする。

☆まきのはら号、はぎま号

	1 便	2 便	3 便	4 便
●●から特定施設へ	8:45	9:45	10:45	14:15
	1 便	2 便	3 便	4 便
特定施設から●●へ	10:30	11:30	13:00	16:30

☆しずなみ・かわさき号、ほそえ号、さがらひがし号、さがらにし号

	1 便	2 便	3 便	4 便
	9:00 (9:15)	10:00 (10:15)	11:00 (11:15)	11:30 (11:45)
	5便	6便	7便	8便
	13:00 (13:15)	14:30 (14:45)	16:00 (16:15)	17:00 (17:15)

R7. 4～

号	運行状況	運行会社	運行便数	特殊事情
さかべ号	本格運行	東海タクシー	週2 8便/日	吉田町の病院への運行 サロンの臨時運行
かつまた号・まきのはら号	本格運行		週3 8便/日	
しずなみ・かわさき号、ほそえ号	試験運行		週3 8便/日	
すげやま・はぎま号	本格運行	御前崎タクシー	週3 8便/日	
じとうがた号	本格運行		週2 8便/日	御前崎市の病院、スーパーへの運行
さがらひがし号、さがらにし号	本格運行		週3 8便/日	

③10 回無料乗車券の廃止

目 的：デマンド乗合タクシーの利用促進や定着を目的に実施中

事業内容：10 回利用ごとに 1 枚の無料乗車券を配布（有効期間 6 ヶ月）

利用区間に定めは無く、デマンドの特定施設であれば、どこでも利用可能

配布方法：市が利用者実績をカウントし、対象者へ毎月送付

（無料乗車券の課題）

利用者増加に伴い、発行枚数は年々増加している。

当初の目的のとおり、日常使いのヘビーユーザーが定着し、10 回利用のハードルが下がっていることや、利用者が増えたことによる市の事務量の増加が課題となっている。

（方針）

無料乗車券を楽しみにしている利用者や、普段行かない遠距離の静岡空港への利用者などもいるため、廃止することは困難である。

今回のデマンドタクシーの運賃改定に合わせ、利用者の負担増を軽減することおよび事務の簡素化を目的とし、回数券を販売し、その回数券に 1 回分上乗せをすることで無料乗車券の配布を終了する。

○牧之原市デマンド乗合タクシー回数券

1 2 枚綴り 3000 円（仮） 1 枚単価 250 円

金額帯によって必要な枚数が異なる。

1 枚→300 円区間

2 枚→600 円区間

3 枚→800 円区間、1000 円区間

4 枚→1500 円区間

④ 特定施設の追加

主任ケアマネージャー会議でいただいた意見を基に特定施設を追加したい。

○すげやま・はぎま号

→（静波）ねぎクリニック、（細江）メンタルクリニックゆうゆう、（静波）石井内科・皮膚科

○じとうがた号

→（静波）ねぎクリニック、（細江）メンタルクリニックゆうゆう、（静波）石井内科・皮膚科

○さがらひがし、さがらにし号

→（静波）ねぎクリニック、（細江）メンタルクリニックゆうゆう、（静波）石井内科・皮膚科

【理由】旧相良町に精神科医、皮膚科医が無いため。

○さかべ号

→（相良）中村耳鼻咽喉科

○かつまた号

→（相良）中村耳鼻咽喉科

○しずなみ・かわさき、ほそえ号

→（相良）中村耳鼻咽喉科

【理由】旧榛原町に耳鼻咽喉科が無いため。

○全地区

→（坂部）道の駅そらっと牧之原

方 針	事 業	R7に予定する主な取組
基本方針1： 富士山型ネットワーク構造の形成に資する地域公共交通ネットワークの構築	1：沿岸部の路線の維持・再編（幹線軸（裾野部））	・相良御前崎線、相良浜岡線の見直し（土日祝を中心とした見直し）
	2：市街地と高台エリアを結ぶ路線の再編（幹線軸（斜面部））	・自主運行バス萩間線、勝間田線の高台エリア接続に伴う運行協議
	3：富士山型山頂部からの路線の創出（広域交流拠点連携軸（山頂部））	・西部方面や空港への路線創出の協議（空港アクセスバスや企業送迎バスの活用）
基本方針2： 地域公共交通の利便向上、利用促進策の推進	4：高齢者等の移動手段の提供	・デマンド乗合タクシーの周知、乗合率向上策の検討
	5：拠点バス停の環境整備の推進	・拠点バス停周辺の環境整備 （相良営業所バス停：バス停車帯設置、根松下りバス停：自転車対策、その他駐車場確保） ・高台エリアバス停の整備方針の検討
	6：誰もが利用しやすいサービスの提供	・高校生通学マップの作成、配布 ・デマンド乗合タクシーのサービス改善（回数券導入等）
	7：モビリティマネジメントの推進	・産業フェア出展
基本方針3： 持続可能な運行を支える他分野との連携した取組と体制強化	8：観光施策と連携した取組の推進	・公共交通を活かした観光賑わい拠点への誘導施策検討 （静岡空港、道の駅そらっと牧之原、静波海岸、大河ドラマ展（史料館）、ガスワンアリーナ等への誘客）
	9：移住定住、子育て支援につながる取組の推進	・高校生を対象としたバス定期券購入補助制度の継続実施
	10：自動運転技術などのDX化やICTを活用した取組の推進	・自動運転車両の実証運行に向けた検討 ・デマンド乗合タクシーの事例調査（配車アプリ、AI配車）
	11：市民意見を尊重する協議体制と関係者の連携強化	・共助型移送の調査研究（ボランティアドライバーによる移送） ・ライドシェアの調査研究

デマンド乗合バス「まきのほら号」の委託方式への変更について

企画政策部地域振興課

1 現在の運行概要

- ①運行形態 道路運送法第 79 条に規定する自家用有償旅客運送
- ②使用車両 ハイエース（10 人乗り）
乗客 一般座席 6 人、車椅子 1 人
- ③その他 チラシ参照

2 これまでの経緯と利用状況

（導入から現在までの経緯）

導入開始の検討時、現在布引原にある「はいばらクリニック」が勝間田区からの移転を予定しており、牧之原地区は区域内にスーパー（タカヤナギ）と病院のある地域となるため、区域内運行が多くなる可能性があった。

区域内運行の場合、タクシー事業者が市街地から対象者を迎えに行く空車距離は長いですが、乗車から降車までが短くなるため、タクシー事業者の利益は少なくなる。

以上から、タクシー事業者への負担を考慮し、市直営運行で開始して様子を見ることとなり、現在 3 年目に入っている。

（利用状況）

まきのほら号運行データ

- ・ 会員登録者数：109 人
- ・ R4 実利用者数：22 人
- ・ 年間運行回数：約 250 回（R5 推定）

令和 4 年度までの利用状況

年度	運行回数	乗車人員	実利用者数	乗合率
令和 3 年度計	156 回	230 人	26 人	1.47
令和 4 年度計	195 回	324 人	22 人	1.64
合 計	351 回	554 人	35 人	1.58

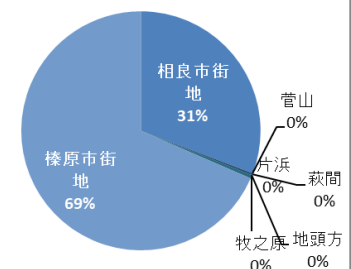
時刻	運行便数	利用者数
8 : 30	89	130
10 : 00	101	152
14 : 00	6	9

利用施設

	区分	施設区分		回数
1	相良市街地	病院等	相良歯科クリニック	7 6
2	榛原市街地	病院等	石井内科皮膚科医院	6 8
3	相良市街地	病院等	堀口外科医院	6 7
4	榛原市街地	病院等	榛原総合病院	6 7
5	榛原市街地	公共施設	牧之原警察署	6 0
6	榛原市街地	病院等	みどり歯科医院	2 6
7	相良市街地	スーパー	スーパーラック相良店	2 2
8	榛原市街地	公共施設	市役所榛原庁舎	2 2
9	榛原市街地	スーパー	カネハチ榛原店	2 1

時刻	運行便数	利用者数
11 : 30	127	218
13 : 00	24	35
16 : 30	5	8

行き先区分



※区域内運行はほとんどないため、タクシー事業者への委託に切り替えたい。

3 委託方式への検討事項

① 事業者

御前崎タクシーのある白羽から牧之原地区の中心部までは、約 20km、25 分と遠距離であるが、東海タクシーは約 10 km、16 分と半分の距離であるため、東海タクシーへの委託としたい。

② かつまた号との統合

まきのほら号利用者は、榛原市街地への移動が多いことから、山間部から沿岸部の動きで「かつまた号」と同じ動きとなることから、2つの号を統合し、運行曜日を統一、週3日に増やすことで利便向上を図る。

③ 経費見込み

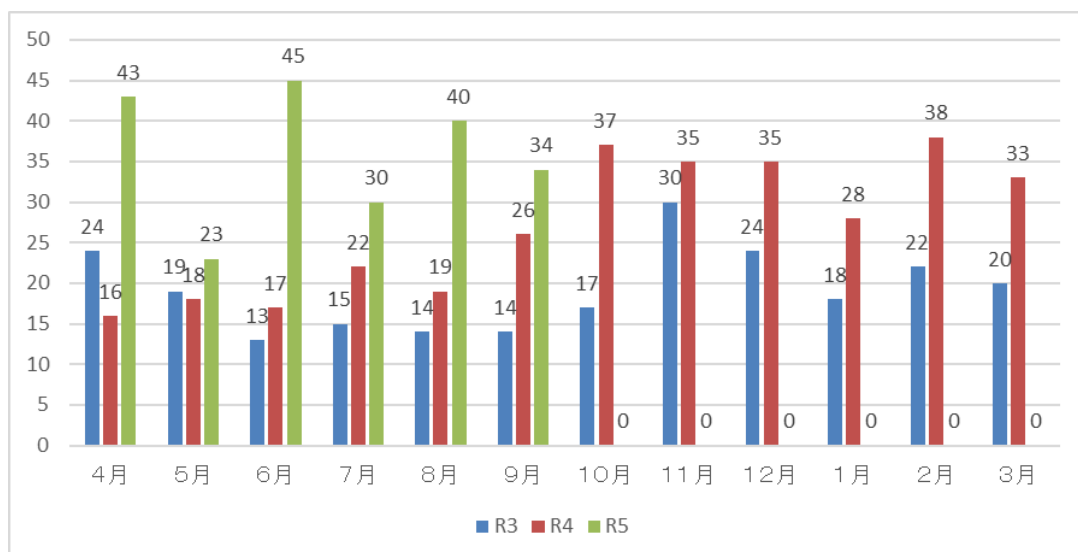
6,000 円（移動距離 13 kmと仮定）× 250 回≒150 万円（かつまた号、まきのほら号）

④ 運行概要 ※現在の方法を引き継ぐが、いくつかの変更点がある

	変更前	変更後
法律	道路運送第 79 条（自家用有償運送）	道路運送法第 4 条（乗合旅客運送）
曜日	月：相良地域 火、木：区域内 金：榛原地域	月、火：廃止 水：榛原地域＋区域内 木：相良地域＋区域内 金：榛原地域＋区域内
便数	6 便（3 往復）	8 便（4 往復）
運賃	250 円、350 円、500 円、1,000 円	変更なし
予約方法	市に前日予約	変更なし※
運行範囲	相良週 1、榛原週 1、区域内週 2	相良週 1、榛原週 2（区域内含む）

※予約方法は、他の号では 30 分前までであるが、牧之原地区への移動は時間がかかるため、前日までの予約のままとする。（利用者も前日予約に慣れているため、問題は無い）

参考 利用者数の推移



令和 6 年度デマンド乗合タクシーの運行計画案について

企画政策部地域振興課

1 全体の運行方針

① 号の統合による運行曜日の拡大

全域導入を完了し、今後は利便向上、利用促進を図っていくが、利用者のからの要望が多い「運行する曜日を増やしてほしい」に対応するために、週 2 運行から週 3 運行への改善を図る。

現在の号のまま運行日を増やすと、乗合率が低下する可能性があるため、号を統合して曜日を整理することで運行曜日を増やす。

また、運行曜日を増やすことは、午前中の特定便に集中する利用者を分散させることとなり、事業者側の配車の負担軽減にも効果が期待できる。

(統一事項)

- ・号を統合しても運賃は現在と変わらない

デマンド乗合タクシーの運行曜日の拡大（榛原）

変更前

		月	火	水	木	金
東海タクシー	さかべ号		○		○	
	しずなみ・かわさき号	○				○
	ほそえ号		○		○	
	かつまた号			○		○
市	まきのはら号	○				○



変更後（R6. 4～）

		月	火	水	木	金
東海タクシー	さかべ号 (サロン連携実施)	サロン開催に応じて臨時運行				
	しずなみ・かわさき号、ほそえ号	○	○			○
	かつまた号 まきのはら号			○	○	○

ア さかべ号

週 2 運行を維持するが、地元要望のあるサロン開催に合わせた臨時運行を取り入れる。試験的な取組と位置付け、当面の間、坂部区のみで実施。

(坂部区のサロン)

- ・さかべふれあいサロン：第 1、2、3 金曜日に坂部区民センターで開催
- ・坂 2 井戸端亭：毎月 10 日に岩昌寺で開催

イ しずなみ・かわさき号、ほそえ号（両号の乗合可能）

榛原市街地の「しずなみ・かわさき号」と「ほそえ号」を統合し、週3回運行で試験運行を継続（運賃はそのまま）

ほそえ号の木曜日の運行は少ないため廃止する。

ウ かつまた号、まきのはら号（両号の乗合可能）

（かつまた号）

- ・利用実績がほとんどない11:30、14:00便を廃止（他の号と同じ便数に整理）
- ・新たに木曜日を追加するが、まきのはら号の相良行きとは別扱いとする

（まきのはら号）

- ・金曜日の榛原地域行きは維持するが、月曜日の相良地域行きは木曜日に変更
- ・新たに需要の多い榛原地域行きの水曜日を追加する

デマンド乗合タクシーの運行曜日の拡大（相良）

変更前

御前崎 タ ク シー		月	火	水	木	金
	すげやま・はぎま号		○			○
	じとうがた号	○			○	
	さがらひがし号		○			○
	さがらにし号	○		○		



変更後（R6.4～）

御前崎 タ ク シー		月	火	水	木	金
	すげやま・はぎま号		○	○		○
	じとうがた号	○			○	
	さがらひがし号 さがらにし号	○	○			○

エ すげやま・はぎま号

利用者数が多いため、新たに水曜日運行を追加する。

オ じとうがた号

本格運行への移行直後（R6.4～予定）であること、御前崎市へ運行しているという他の号と違うサービスを導入済みであることを理由に、ひとまず週2運行のままで様子を見る。

カ さがらひがし号、さがらにし号（両号の乗合可能）

相良市街地の「さがらひがし号」と「さがらにし号」を統合し、週3回運行で試験運行を継続（運賃はそのまま）

さがらにし号の水曜日の運行は少ないため廃止。

R6. 4～

号	運行状況	運行会社	運行便数	特殊事情
さかべ号	本格運行	東海タクシー	週2 8便/日	吉田町の病院への運行 サロンの臨時運行
かつまた号・まきのはら号	本格運行		週3 8便/日	
しずなみ・かわさき号、ほそえ号	試験運行		週3 8便/日	
すげやま・はぎま号	本格運行	御前崎タクシー	週3 8便/日	
じとうがた号	本格運行		週2 8便/日	御前崎市の病院、スーパーへの運行
さがらひがし号、さがらにし号	試験運行		週3 8便/日	

② 時刻の変更

市街地以外の地域では以下のような運行時刻としており、所要時間を2.5時間で設定しているが、用事が済めば早い便で帰宅している。(例：行き2便目⇒帰り1便目)

しかし、行きの4便目で移動した場合は、帰りの4便目を利用するしかなく、待ち時間が長くなるため、利用率は低い傾向にある。

そこで、17時を16時30分に早め、利便の向上を図る。

	1 便	2 便	3 便	4 便
●●から特定施設へ	8:30	9:30	10:30	14:30
	1 便	2 便	3 便	4 便
特定施設から●●へ	11:00	12:00	13:00	17:00